

第五區長殿

郡報

第四十九號

大正八年
十月二十八日

利根郡

●大正七年利根郡農工商景况報告

農業

農業は本郡民の主業にして其戸數九千八十一戸を有し本郡總戸數一萬壹千七百九十二戸に對し約七割八分を占め内自作農三千五百二戸自作兼小作農三千二百二十四戸にして小作農の年々増加する傾向を示し現在二千四百五十五戸を算す然して本郡の耕地面積は田一千九百四十五丁四段畑九千二百六十一丁七段合計一萬一千二百七丁一段を有し之を農家に配當する時は田二段二畝歩畑一丁歩計一丁二段二畝歩に當り一戸當り面積の廣大なる縣下の優位にあり然して是等土地收入を計算すれば産米

四萬百十五石價格百六十一萬七百七拾四圓麥四萬五千百三十五石價格六十六萬八千貳拾圓豆菽類一萬三千四百二十四石價格十七萬七千四百七十一圓に達す又養蠶飼育戸數は六千九百五十一戸にして農家總戸數の約七割七分を占め此收入二百八萬五千拾七圓に達し農家年収入の過半を占むるを以て普通農事と養蠶業とは本郡産業の最主要なるものなり故に其豊凶盛衰は郡經濟の根本を左右するものと云ふも敢て過言にあらざるを信す故に以て郡當局に於ては極力之が改善を企て發達を期するため數年前郡立農事講習所を設置し農村の中堅たる農家の子弟を收容し專實際的農事の教養に意を注

ぎ傍一般郡民に對し農業經營の模範を示し郡技術員並に農會技術員と相協力して農閑を利用して各町村を巡廻して農蠶に關する各種の部落講話を開催し農民の智識啓發に努む尙郡立農事講習所卒業生全部を郡農會に於て農事指導員に囑託し郡技術員指導の下に郡及郡農會に於て施設獎勵せる事項の普及徹底を計らしむるは勿論各自卒先して百般の改良事項を實行し一般當業者に對し直觀的に之を指導し改良進歩の途を講じ一は以て卒業生自身の完成を期し將來郡農業上に於ける先進者たらしめんとす

本年郡又は郡農會に於て獎勵施設したる事項中其主なるものを舉ぐれば川田村外五ヶ村農會をして農作物立毛其他品評會を開催せしめ郡技術員をして之審査をなさしめ選種耕耘肥培管理等改良すべき要点を指摘し當業者の自覺を促し麥作稻作の實地指導により各般の改良事項を直觀的に指導誘掖するところあり水稻採種田二十六ヶ所面積九段三畝步麥採種圃二十三ヶ所面積一町二段二十六步其他郡農會水稻原種田四ヶ所面積二段步に於て採

尙各町村青年會をして模範桑園十二ヶ所一町四段三畝九步を新設せしめ郡技術員指導の下に之か植付をなさしめ耕耘は素より肥培の方法害虫の驅除等に至る迄常に巡廻指導をなし當業者をして隨意觀察せしめ参考に供せしむ其他耕地の擴張二毛作の獎勵縣外先進地の産業状態視察等をなさしめ以て郡農業改良發展を謀る資となさしむる等逐年改良の實績を擧げつゝありと雖未以て他郡市に比し遜色あるを認め所期の目的を達するに至らず

工業

本郡は從來交通機關の不備なるに因り工業として見るべき施設なく只利根發電株式會社の電氣事業を經營するもの木材乾留事業を經營する日本醋酸製造株式會社赤谷乾留工場のあるのみ前者は利南村大字上久屋に第一發電所の設備ありしが電力を供給するに不足あるを以て更に白澤村大字岩室に第二發電所を設け益事業の擴張を企て動力用點火用として東上州より栃木、埼玉、東京、千葉の各府縣に亘り其供給をなす後者は新治村大字相模なる赤谷川上流に工場を設け國有林の拂下をなし

種したる原種を無償配布し品種の改良統一を計り或は種子の塩水撰並に麥種子冷水温湯浸法の實行をなす尙肥料に對しては堆肥及綠肥等自給肥料の生産を計るため郡農會に於て堆肥舎建設を獎勵し建設坪數に依り獎勵金を交付す本年建設堆肥舎二十棟百五十七坪二合五勺余の新設をなさしめ且新治村外五ヶ村に於て堆肥品評會を開催し郡より賞狀及賞品を授與し之が改善獎勵に努む綠肥に就ては郡農會に於て共同購入を斡旋し荷造運搬其他購入に要する總ての費用を負担し紫雲英種拾八石價格千貳百四十二圓を講入し當業者の利便を圖る其他青年會、報德社、同窓會、養蠶組合、等各種團體の主催に係る農産物品評會に對し審査指導をなし尙勞力の節約を謀るため牛馬耕を獎勵し郡農會主催のもとに馬耕並技術會を開き本縣農事試驗所長の審査を乞ひ以て斯道を獎勵し技術の促進普及徹底を謀らしめ荒廢せる桑園の改植に就ては極力之が獎勵を企て之又農會により接木苗五萬八千二百六十五本實生苗三萬三千八百五十本合計九萬二千五百五拾本價格千六百圓の共同購入をなさしむ

木材を乾留して錯酸石灰を製出し産額四萬五千三百二貫價格三萬八千五百六圓粗製木精八萬八千九百貫價格壹萬六千四百十五圓其他副産物として木炭其他價格二萬二千八百七拾四圓に達す其他小規模ながら個人又は組合の經營に係る器械製系場あり其個人經營に屬する原澤製系所、萬壽館製系場及南三社に屬する下仁田社細谷組、新盛組、川田組及碓氷社三國組、利根組等を主とし器械製系戸數十二繰系釜數千四百十二個生糸産額一萬六千五百八貫價格百十九萬四千五百六拾圓を出し專輸出向として販賣しつゝありと雖尙郡内生繭の三分の二を他地方に移出するの狀態にあり之れ墨鏡製系工場の不備なるに基因するを認むと雖専大企業家の手に須つに非らざれば容易に行はれ難きを以て産業組合法に依る組織に依り適當に之か生産増加の途を進めしめんとす機械は近年染織講習會等に依り指導獎勵したるを以て各種織物の産額著しく増加し本年産出を擧ぐれば絹織物五百余反價格四千四百七拾八圓絹綿交織物九百反價格五千余圓綿織三千百十九反價格九千六百五拾圓織物總計約二

万圓を産出す其他木材製板工場十二ヶ所堆肥料加工場二ヶ所あるも小規模にして見るに足らず向川田村の硫酸苦土は化粧品又は洗粉原料として汎く世に現はれ近時鉛筆の原料として使用せらるゝを以て其産額二万貫價格一萬圓に及ぶ之れ等加工場は何れも個人經營にして規模又小なり石材としては川場村花崗石、川田村安山岩等の産出を重なるものとし建築用として他へ移出す其他利南村片品川沿岸の久屋石等は其質緻密にして光澤あるを以て往昔より貴重せらる醸造業は酒類製造工場十六ヶ所此産額四千三百二十九石價格十六万六千六百六拾四圓を出し醬油製造工場の三ヶ所此産額五百九十二石價格壹万五千九百八拾四圓を算す其外鑄物工場等あるも産額僅少にして掲記するに足らず之を要するに本郡の工業は未以て數ふるに足るべきもなく其發展は將來交通機關の完成と相俟て共に發達するに至るべし

商 業

本郡は四面廻らずに山岳を以てし地勢平垣ならず利根片品の二大河郡の主要部を貫流すと雖往々斷

緩漫なる未嘗て見ざる所なりとす金融機關たる銀行には沼田町に利根貯蓄、沼田貯蓄の二銀行新治村に利根銀行あり何れも各村部に二三の支店或は代理店を設く之れ等銀行大正七年度下半年期精算に依れば利根貯蓄銀行資金五十万圓準備金參万參千八百圓預り金六千五百六拾貳圓普通預金貳拾貳万四千九百參拾參圓貸附金拾九万貳千五百圓沼田貯蓄銀行資金九万圓準備金參萬八千五百圓預り金十二万九千五百圓内普通預金四拾貳万四千五百九拾圓貸附金七万五百二十六圓利根銀行資本金五万圓準備金四萬五千圓預り金貳拾壹万六千三百十六圓貸附金貳拾參万一千九百三十七圓に達す是を以て見るも金融の如何緩漫なりしか察するに余あり

蠶 業

本郡養蠶は從來其經營方法極めて粗放に流れ掃立枚數の如きも徒らに多かりしが近時當業者に於ても粗放的經營の不利なるを自覺し自家勞力の分配と桑園蠶室蠶具の利用等に注意し從來より春蠶飼育を減じ一面夏秋蠶飼育を盛になし勞力の調節を計り集約的經營を行ふ傾向を現はすに至れりと雖

岩の絶壁多くして舟航の便なく只南西部に連なる、一の國道と東部に會津道及大門々道西部に三國道の縣道あるのみにして交通の不便なる縣下に其比を見ざる所なり之を以て物資の集散緩漫にして商家と雖も多くは半農半商の状態なり然して商業數戸數千八百五十九戸中仲買商二百二十九戸小賣商一千四百六戸仲買小賣兼業商二百二十四戸あり沼田町は本郡商業の中心にして郡の内外より各地に移動する物資の大部分は必此地を通して集散するに依り比較的繁華の状況を呈す就中七、八、九の三ヶ月は生繭の取引盛にして賑を極む繭糸同業組合取扱に係る數量を擧ぐれば生繭三万一千石價格二百八萬一千三百圓生糸一千六百貫價格百三拾六万二千五百圓の多額に達す木炭は本郡物産中産額多きものに屬す木炭同業組合取扱數量に依れば三百七拾六万一千貫價格六拾四万貳千五百圓に上る其他米、麥、豆菽類、肥料、木材、其他産業用品並に日用雜貨等は時局の爲反て本郡産業界に好影響を及ぼし糸價の昂騰米、麥、豆菽等近年無數の高價を示し當業者の収入著しく増加し金融の

尙桑園の荒廢は著しく收葉を減じ又蠶兒飼育に於ても近時品種の變遷に遇ひ當業者稍々狼狽の傾あり加之歐州戰亂の突發以來經濟界の激變と共に著しく養蠶業の利益をして殺滅せしむるに至る故に當業者をして此際一層經濟的經營法を行はしむる必要あるは焦眉の急なりとす郡は從來農事講習所技手をして之が兼務をなさしめ斯業の奨励を努めつゝあるも本年度よりは更に専任技術者を設置し之が指導の任に當らしむ尙又蠶業補助政策を設け養蠶組合設置を奨励し其成績に對し相當の奨励金を交付せり其數昨年十七組合に對し本年度補助金を交付せるもの二十組合あり此等組合の内容改善も年を追ひて好成绩を修むるに至るは喜ぶべき現象なりとす

桑園に就ては郡農會の奨励施設として大正四年度より各町村青年會又は養蠶組合其他團體をして模範的桑園を設置せしめ植付後三ヶ年間金貳拾五圓の奨励金を交付し郡農會技術員指導の下に肥培耕耘任立方等に至る迄團體員の共同作業を以て模範的經營をなし一般當業者に範を示し一面桑葉需給

の調節に資せんとしつゝあり現在設置しあるもの五十一ヶ所此面積五町八段八畝十五歩に達し其他一般桑園の改植を奨励し本年郡農會に於ては桑苗接木五万八千二百六十五本實生三万三千八百五十本合計九万二千五百五十本の共同購入をなし技術員を生産地に派遣し實地調査の上優良品種を撰定し以て當業者の利便を謀りたり

尙女子蠶業教育普及を圖るため本年度七ヶ村に亘り冬季農閑を利用し一ヶ所一週間の短期講習會を開設し二百八十七人の終了者を出したり生産商販賣に就ては共同販賣を奨励し養蠶組合其他一般當業者をして共同販賣の利益あるを知らしめ一面郡内製糸家及前橋市製糸業者と交渉取引を行はしめ好果を得たり本年の蠶況は概して良好と云ふを得ざれども春蠶に於ては平年に比し氣候稍々低温なりしを以て桑葉の發育不良の爲從て掃立をして遅延せしめたるも結局桑葉の成育と蠶兒の發育と均街を失し五齡期に至り桑葉の充實を欠きたるにより未曾有の拂底を來し爲に相場場の暴騰を見るに至る故を以蠶兒の營養不良に陥りたるもの少な

善の道を講じ一層集約經營を指導するの要あるべきなり

畜産業

本郡の畜産業は近時漸く發達の端緒を開くに至る郡は産牛馬畜産組合に對し本年度一千圓の補助金を交付し直接斯業の改善を圖らしむるを以て組合に於ては年々沼田、新治の二ヶ所に種付所を設け國有種牡馬五頭の派遣を乞ひ一面片品、東、赤城根の種付に就ては國有貸牡馬下二頭を派遣し川場、水上新治方面に對しては縣有貸下各一頭つゝを派遣以て種付を奨励し專良駒の生産を圖りたり從來組合に囑託獸醫を置きたるも本年度更に專任技手を置き常時畜牛馬の保健に留意せしめ飼養管理に關し畜主に指導するは勿論飼料の改良牧野整理牧場の設置等に至る迄常に啓發に努む本年十月糶市場に出場せるもの百五十七頭にして前年の開設した百五十四頭に對し増加僅かに三頭に過ぎず之已往數年間産駒の價格低廉にして養蠶及農作物の管理等多忙極に達したる春夏の時期に於て産駒を育成するの甚手数要するものとなしたる事

からざりしは甚遺憾なり然れ共天候は良好なりしを以て給桑充實の向きは經過概して良好なりき尙前年度掃立枚數春蠶二万八千七百二十五枚に對し本年度二万七千四百八拾枚前年に比し千三百枚を減少せり然れ共之が收繭量前年二万二千三百二石に對し本年は二万七千七百五十石にして前年に比し收繭歩合の著しき向上を示し價格前年百二十二万四千七十五圓に對し本年度百四十一万五百五拾參圓にして十八萬六千餘圓の増額に達し繭十貫目前年四拾六圓に對し本年度六拾四圓八拾九錢に至る是價格の騰貴に基くものなりと雖又品質の改良せられしも推察せらる夏秋蠶に於ても本年收繭量一万四百八十二石價格六十七万四千八百六十四圓平均十貫目六十四圓三十八錢を示し大に當業者をして集約的飼育の有利なるを自覺せしめたりと雖前年に比し諸物價の騰貴勞銀の昂騰の結果生産費に於て多額を要したる向少なからざるは大に注意すべき要點なりとす要するに本郡の養蠶業は之を他郡に比し未尙多くの遜色あるを免れざるに依り將來大に經營並に飼育の方法品質の改良に關し考究敢

實によるものなり然れ共本年の種付牝馬總數三百七十二頭にして昨年度の二百九十九頭に比すれば七十一頭の増加を見るに至る之れ畢竟産駒の價格騰貴せしに基因すると雖郡民舉て畜産業の有利なるを自信したる結果に外ならず而して之れ等牝馬に對し特に優良なるものには組合より賞品を與へ奨励に努め亦本年十月犢駒品評會を開催し優良なるものに對しては縣より賞與を乞ひ尙組合に於ても之れが副賞を授與せり其出陳は駒三十八頭犢二頭計四十頭にして受賞數二十頭を出し昨年度出陳數二十頭に對して倍數に達したるに徴しても一般に畜産思想の向上せしと漸次改良進歩の途に就きたることを證するに足らん

由來本郡農家にては馬匹の飼養に止まり爲に畜牛に關するの智識普及せず従ひて其利用の方法を知らず偶々飼養するものあるも多くは搾乳業者に貸附し其他は放牧場に放ち僅かに舍飼の方法を取りたる結果肥料の收穫も少なく産額は價格産駒の半に當らず従ひて收支績はざるご一面畜牛に對し趣味を味ふの余地なきにより依然として發達せざる

現況なり現在僅に三百頭に過ぎず然も之れ等は年々減少するの狀態にあるは最遺憾とする所なり
畜牛奨励の方法としては産業組合法に依る生産販賣組合を設立せしめ農家畜牛の搾乳をして自由販賣をなさしめ尙餘乳は之を乳製品となす等農家を以て畜牛の有利なるを自覺せしむるにあり

豚は近年益々増加の傾向を示すと雖郡内を通じて之れ又三百余頭を出でず然れども馬匹を飼養すること能はざる小農家に於ては肥料の生産を得ると短期間に成育する以て收支計算上の利益甚多し郡内一般に豚飼養者激増せるの傾向にあるを以て此期を逸せず極力奨励を加へんとす

山羊綿羊にありては好事家の賞翫用として僅かに七十頭を飼養するに止まり未實用に供する程度に達せず本郡に飼養せらるゝ山羊は能力劣等なる種類にして一日の泌乳量僅に五合以上に及ぶものなきを以て將來之か種類の改善飼養管理の方法等を指導し之れ等小動物の飼養を發達せしめんとす

林業

本郡の面積は民有林約三万五千六百町歩を有し年々

七八十町歩の造林をなすと雖未だ施業案を確立して經營をなすの極めて少く且林業上の知識の幼稚にして多くは目前の小利に惑ひて濫伐を行ひ伐採と植栽と相伴はざるの傾向を示しつゝあるは實に遺憾に堪へざるを以て郡は大正二年度に於て白澤

村地内國有林九十六町歩を拂ひ下げ模範林を設置して林業經營及苗木養成の方法を示されんことを致し大正三年度より赤松、杉、扁柏の植栽を開始し本年度に至る迄植栽を終了せし面積三十二町三段歩に及ぶ之れ等植栽事業は本郡林業の發展上裨益少なからざるを認む其他郡林業技術員を派出して縣郡の奨励施設事項の徹底に努めしむるを以て大に進展を認むるに至れりと雖數年來杉、赤枯病流行の爲め最本郡に適應せる杉苗木の完全なるものを得ることの不可能なる状態にあるを以て年々植栽苗木の不足を告ぐるに依り本年度より郡施設として苗圃を新設し樹種の無償交付を企劃し扁柏五升、樺五斗を年々播種し大正十年より之か交付を繼續的に行はんとす加之郡農會の奨励事業として大正四年以來利南、白澤、東、片品、水上、須川

の小學校に苗圃の實地指導地に設け郡農會技手及各學校教師の指導監督の許に農村兒童に樹苗養成上の技能を會得せしめ且自産自給の計を講ずる目的を以て事業を繼續す尙本郡林産の首班を占むる木炭は其産額三百余万貫價格六十四万余圓に達す由來本郡の製炭は品質に於て劣悪なるにあらざるも俵裝數量等各産地に依り形式を異にし統一を欠くを以て多野、吾妻産に比し遜色あるを免かれず

此に於て同業者の協議整ひ結束を以て利根郡木炭同業組合を組織せしめ大正七年五月認可を得着々品質の改善より俵裝數量の統一を企て検査を勵行し一面品評會を開催し優劣を比較し以て研究の資に供せしむ尙本年十一月十二月の冬季に於て郡内四ヶ所に講習會を開き當業者の技能向上を計る尙郡は同組合に對し補助金を交付し以て之等の事業を助成せんとす

水産業

本郡は山紫水明にして山脈蜿蜒するを以て到る處湖沼溪流に富む幹川たる利根、片品の二川に注入

する支流甚多し其中赤谷、薄根、四釜の諸川は大なるものなり之れ等河川に棲息する漁族甚多く本年度漁獲せる産額を上ぐれば鮎千八百貫價格約一万圓鰻三百二十貫價格千貳百二十七圓鯉百三十貫價格四百圓鰻三百五十貫價格二千圓鱒八百貫價格三千二百圓其他鮎、鱒、雜魚を合し總計價格約二萬圓に達す大正四年より片品村菅沼及丸沼に於ける養殖場開始以來各村競いて區劃養殖の經營を企て既に養殖場として使用せらるゝものゝ内公共の用に供する水面四ヶ所面積三十四万四千九百四十坪公共用に供せざる水面一千五坪總計面積三十四万五千九百九十坪あり尙年を追ひて増加の傾向を示す之れ等養殖場に於ては盛に鱒を飼養するを以て數年ならずして其産額の著しき額に達するを見るべし而して本郡漁業戸數は本業とするもの三十九戸副業とするもの三百六十六戸計四百五戸を數ふ鮎は利根川に産するもの肥満長大且河川の清流なるを以て香氣高く味殊に美なりと云ふ就中川田村廣瀬の築にて捕獲するもの最世に現はる鰻、嘉魚は山間溪流に繁殖するものにして骨柔かにして

味又鮎に劣らず四月の雪代露十一月の木の葉露等は味一層美なる季節なり古來より新治村大字戀越山麓の溪流中海苔を生産する地あるを以て近く縣技術者の調査を乞ひ養殖の途を講せんとし目下村民の計畫中により要するに本郡に於ける河川湖沼等は魚族繁殖上適當なるものなるを以て之れ等を利用して養殖を計るの前途有望なる事たるを認め極力奨励に努めんとす

其他の副業

本郡は積雪長期に亘るを以て此期間に於ける副業を奨励するの極めて適切なるを認め曩に屑物整理講習會を開催し玉糸、線糸及真綿の改良を圖り大正五年度より染織講習會を開催し以て農閑期に於ける女子の副業を奨励し爾來回を重ねること織物及回染色四回本年又染色一回織物二回を開催し前後通じて六百五十一人の終了生を出したり郡は是等終了生に依て自家用染糸廢物利用は素より衣服として自足自給の途を講せしめ更に進みては將來本郡に於ける一物産として他方へ販賣を見る程度に至る迄進歩發達せしめんとす

多からしめ次で需要地に向ひ供給を潤澤ならしめんとす

果樹類柿は本郡の地味氣候に最適應せるものにして一ヶ年産額生柿拾五万二千余貫價格四万五千六百圓に達するに至る農村に於ける宅地又は畦畔等の空地利用の策として奨励の必要あるを認め數年來品種の改良良種の接木又は改植等を奨励し且つ先年白柿製造の講習會を開き之を傳習を受けしめ之に依りて郡内三四ヶ村よりは多少の製造を見るに至りたるも未だ一般に從來の串柿を製造するに止まり其産額一万六千貫價格八千四百圓を出すに過ぎず生柿産額に對し製造額の僅少ななるを以て見れば生柿のまゝ市場に取引せらるゝものゝ額決して少數ならざるを知るべし

山葵は未だ其生産少しと雖水上村、赤城根村の如きは最繁殖せる適地なるを認む元來本郡は山間に介在する村落に依り一郡を形成せるを以て一般農業をなすに適應せるは南部の平垣一部に過ぎず他は山間濕潤地多きを以て現に天然生山葵の繁殖せるもの少なからず之等の土地にして人工を加へし

椎茸は森林副産物として本郡の如き原料木に豊富なる土地にありては前途有望の事業にして奨励を加ふるの要あり從來は只自然生のものゝみを採用するに止まりたれども大正二年縣立農事試験場に於て新治、池田の兩村に人工栽培試作場を設け實地指導をなす次いで技術員の巡回指導等ありてより以來之が人工栽培の有利なるを自覺し小規模ながら之が企畫をなすもの數ヶ町村に亘り爾來試験的栽培を行ひつゝあり然れども未極めて幼稚にして數ふるに足らずと雖其産額は乾燥量千六百四十四斤價格八百二十余圓に達す郡は將來之が栽培を勸奨し汎く郡外移出の域に達せしめんとす

蕨粉及葛粉は本郡水上村の特産物にして古來より農閑の副業として製出す桐生、足利等の機業地を主とし糊用として争ひて之を購買するの狀態なり其産額二万三千六百斤價格六千三百圓に過ぎじ常に供給不足を告ぐるも國有原野の火入嚴禁と原料拂下手續等の容易ならざるに依り原料を求むるの困難なるを以て産出の多からざるは遺憾とする所なり郡は是等に對し方法を講じ將來大に産出を

か大に成績を見るべきものあらん爰に於て郡は大正五年十月靜岡縣より苗二万本を購入し縣囑托教師指導の下に試作田を設け且希望者に對し苗の無償配布を行ひ爾來繼續して苗の無償配布奨励金の交付等の方法を以て奨励指導し本年度に於て既に五十六坪の新栽培地を増すに至る尙畑山葵の栽培を奨励するあり故を以て數年ならずして多額の産額あるや期して待つべきものあらん

其他蕨細工芝細工各種竹細工等多からずと雖竹細工戸數七十四戸價格金六千九百三十八圓蕨細工中蕨筵四万五千五百卅二枚價格五千九百五圓蕨網三万九千七百七十七枚價格四千四百三十二圓其他蕨細工芝細工價格二万六千六百一圓に達し年々増加の傾向を示しつゝあり郡は之等手工的副産品に對しては數年來品評會を開催し改善指導の途を講じつゝあり

煙草は往昔より之を栽培し沼田煙草の名高かりしが專賣法の實施と共に一般の栽培を停止せらるるため一時中絶の狀態なりしが本郡中川田、岩野、新治三ヶ村の土質氣候能く煙草の成育に適するを

柿

以て其後大正三年に至り従前の緣故により川田村三十町桃野村十二町新治村四町一反五畝計四十六町一段五畝の試作ヲ認可セラレ以後繼續三ヶ年に及大正六年より漸く耕作地に編入せられ尙沼田外五ヶ村より試作人員百五十五人反別十三町五段歩の試作申請ありしを以て本年度より試作を許可せらる其産額總計三万五千余貫賠償價格四万八千七百圓に達す由來煙草の耕作は秋蠶と相容れざる關係より紛擾を來し町村自治の障害をなす嫌なきにあらざるも之れ等は耕作人及關係者の協約により何等支障なき方法を講ずるの容易なるものあるべきを以て郡當局は之等に付細密なる注意を拂ひつゝあり

養鶏は從來極めて幼稚の域にありしが大正三年郡農會に於て獎勵規程を設け雛雞を無償配付したるより以來漸次増加の傾向を來し其飼養戸數三万七百三十八戸養雞數一万三千三百三十五羽に達す之を農家總戸數一戸に對するときは一羽五分に當る由來本郡農家は山間に點々散在するを以て鳥獸の害を被むるもの多く爲に獎勵も其効少なりしが

勵を怠らざると共に町村農家の經濟狀態を精査し漸次各村に村是の確立實行を促し或は地方適切な産業組合の設立を勸奨し之が増設を謀り産業資金の中央集合を防ぎ地方金融の圓滑に資し中産者以下の産業資金を潤澤ならしめ尙進みては農業倉庫の設立及區劃漁業の獎勵を加漸へ次郡産業の改良發展を期せんとす其外副業に就ては一會の獎勵を以て從來の施設事項を繼續するの外大正八年度に於ては更に白柿製造講習會及桑苗接木講習會を新設し以て之れ等産額をして益多からず林業の獎勵に就ては從來技術員をして苗圃の設置及管理植付等に亘り指導せしが本年より郡費中へ林業獎勵費を新設し苗圃を設置し茲後繼續以て苗圃を擴張し大正十年度より苗木の無償配付をなし大に植林を助成せんとする計畫なり

大豆は本郡の重要物産にして其産額多く古來より中央市場に其の名高かりしが調製劣惡の故を以て名望傾ん即ち此期を利用する奸商輩の蹂躪に委するに至る郡は是等救済の急なるを思ひ先づ數量の統一を謀り乾燥調製の改良を企て郡農會を

品評會展覽會等により大に刺撃を與へられ一面郡農會獎勵施設と相俟て著しく發展の曙光を認む尙郡は獎來大に組合の組織を勸奨し棚飼を獎勵し以て産をして多額ならしめんとす

將來の意見

本郡は其位置及交通の關係上未だ農事諸般の現況及施設他都市に比し著しき遜色あるを免かれずと雖亦將來開發の見込あるを以て郡當局に於ては從來普通農事に屬する技術員一人林務に關する技術員一人の設置なりしが本年は更に蠶業技術員を設置し且又郡農會に専任技術員一人産牛馬組合に畜産技術員一人を新設し之等農術員をして各種農業關係は勿論一般當業者に對し適切なる指導を加へ養蠶組合米麥採種組合等の農業に關する共同的の施設を獎勵普及せしめ同業組合蠶業組合中央會利根郡部會郡農會産牛馬畜産組合酒造組合農業團體にして郡産業發展上適切なる事業を營むものに對しては夫々補助金を交付し之が活動を助成し其及ばざるところは或は部落講話又は品評會に或は短期講習會に又は實地指導地等に付極力指導獎

て共同販賣の方法を勸奨する等極力聲價の向上を圖りつゝあるも未だ其期に達せざるは甚遺憾とするところなり

當郡は耕地擴地に努め開墾事業を獎勵すると共に荒廢せる耕地の整理を行はしめ糧食の充實を期するの基礎を確實にし以て産業の發達に資せんとす

馬鈴薯ノ調理法 及馬鈴薯米ノ製造法

(農商務商農務局にて發表せられたるものを茲に掲記し一般の參考に資す)

生活を簡易にし生計を低廉にと以て家政經濟の改善を圖るは國民の幸福を増進し國家の基礎を強固にする所以なるを以て官民一致極力之が實行普及に努めざるべからず從て米價暴騰せる場合に於ては出來得る限り麥豆類其ノ他ノ雜穀類並甘藷、馬鈴薯等の食用増加を圖り以て農業者は高價なる米麥其の他の農産物の販賣數量を多くし農家經濟の發展を圖ると共に國民食糧の供給増加に努め都市

在住者は依て以て各自生計費の節約を期するに於ては國民經濟上効果頗る大なるものあるべきを信す

利用方法は地方の事情に依り自ら同一なる能はざるべきも今茲に參考として比較的容易にして行はれ易しと認むるものを列記すれば凡る左の如し

- 一 米の精白程度を低くして食すること
- 二 職業の種類に依り朝飯に粥を用うること
- 三 外米を混用すること
- 四 米に麥、粟、黍、稗、大豆、小豆、豌豆、菜豆、南瓜、大根及菜類等を混用すること
- 五 甘藷及馬鈴薯等を或は單用し或は飯に混じて用うること

- 六 饅頭、素麵及蕎麥等を食すること
- 七 職業の種類に依り晝食には可成麵類又は麵類を用うること

前記各號の方法は概ね周知せらるゝ所なるを以て別に詳細に其の調理方法を記せざるも只馬鈴薯を薯に混用する方法に關しては未だ之を知る者少く従て之を實行する地方極めて稀なるを以て左に

たる位の大きさに



切り(生馬鈴薯一貫目

より切片約三升五合を得)直に水に浸し置き(空氣に觸るれば直に赤褐色に變ずる故)相當の分量に達したる時水中にて手にてよく揉みたる後水を取代へ斯くすること三四回にして(能く洗へば馬鈴薯の臭を去る)其の儘清水に二、三時間浸し置き(夕飯後切りたるときは翌朝まで其の儘水に浸し置くをよしとす)次に白米一升に付其の切片凡一升位を入れよく混合し混合(割合は各自の自由なるも前記の割合なれば多くの家庭に適す)之に米と畧同量の水を入れて飯を炊くものとす

今米一升に馬鈴薯の切片一升を混して炊く場合には水は凡る一升位にて充分なり是白米は凡二倍以上の容積に炊殖するも生の薯の切片は水を充分含むを以て水の分量は米のみを標準として加減すれば足れりとす尙古薯なれば豫め馬鈴薯の切片を熱湯に投じ數分間煮て用うるときは口觸り一層良好なりとす、米の上層に切片を載せるときは米飯の如く炊き出さざるを以て火を引くことに注意するを要す先に細かに切りたる馬鈴薯を洗ひたる水中

風に之が必要を熱心に唱導しつゝある福島縣會津の人林すゑ子刀自の調理法を基礎とし之に其の後の研究を加味し其の概要を記すべし

第一 馬鈴薯飯の炊き方

馬鈴薯飯は色白く形は米に似て味亦外米に劣らず而かも調理方法極めて簡單にして如何なる家庭にても容易に作ることを得加ふるに馬鈴薯は栽培簡易にして素人にも容易に作ることを得如何なる土質にても能く適し僅に三、四ヶ月内外にて收穫し多くの地方に於ては年に二回收穫することを得而かも其の第一回の收穫期は六七月頃にして米の端境期前なるを以て食糧自給上効果頗る大なりとす

(一) 生の馬鈴薯を用うる場合

茲には普通の家庭に於ける場合に付を記ざんに生の馬鈴薯を(成るべく大形のものを用うるをよしとす)水にてよく洗ひ(古き薯は洗ふ前に一時水に浸す方皮を去り易し)之を摺鉢又は桶等に入れ力を用ひ搥廻して粗皮を去り尙皮の残るものは庖丁にて削り取り之を適當なる器具にて米を四角にし

には澱粉を含み居る故之を殘し置き綿布にて濾し塵を除き其の水を一時間位靜かに置き澱粉が桶の底に沈み終りたるを待ち靜かに上水を捨てて更に新しき水を加へ攪拌し再び澱粉の沈むを待つべし斯くすること二、三回にして底に沈みたる澱粉を取出し攪けて乾す時は馬鈴薯一貫目より澱粉約二十匁を得べし

(二) 乾燥したる馬鈴薯米を用うる場合

(甲) 馬鈴薯米の製造法

(小規模に製造する場合)

馬鈴薯を(成るべく大形にして凹凸の少きものを選びをよしとす)よく洗ひ生の馬鈴薯を用うる時と同様の方法により皮を去り之を適當なる機械にて(前形全)實物大)圖の如き大きさに切りたるものは空氣に曝さざ様直に水に浸し置き相當の分量になりたる時手にてよく揉みたる後水を取代へ斯くすること三、四回にして別に汲み置きたる清水に暫時(二時間以上)浸し次に釜に湯を沸し煮立ちたる後薯の切片を筥に入れたるまゝ湯の中に入れ

絶えず搔廻し浮びたる皮をすくひとり再び湯の煮立ち始めてより約五、六分間の後取出し策のまゝ湯を切りて蕤又は板其他適當のものゝ上に薄く擴け日乾すべし日乾中は時々搔廻して早く且一様に乾く様注意すれば晴天一日にて充分乾し上ぐることを得べし

若し晴天ならざるときは水中より出すことなく細かに切りたるものを生の儘水中に浸し時々水を代へ晴天を待つべし(雨天續くときは水一斗につき鹽五勺位を入れたる鹽水に浸し置くをよしとす)斯くして乾し上げたものは馬鈴薯米にして馬鈴薯一貫匁より凡八、九合を得べし此の場合にも先に細かに切りたる馬鈴薯を洗ひたる水中には澱粉を含み居るを以て(一)の場合に於て述べたると同様の方法にて取り集め乾燥すべし

(乙)馬鈴薯米を用ひて馬鈴薯飯を炊く方法

馬鈴薯米を用うるときは白米一升に付馬鈴薯米凡る二合五勺乃至三合(約三割強混食の場合)を能く混じて炊くを普通とす
馬鈴薯米に對する水加減は其の容量の二倍内外と

するを適當とす即ち白米一升を飯に炊くには凡る一升六七合位ノ水を入るゝを適度とす

第二 馬鈴薯飯の經濟上の利益

今先簡單なる計算法に依り示さんに前記の如く白米一升に對し馬鈴薯の生の切片一升を混合する場合に付計算すれば此の場合に白米は約二倍以上に炊殖せしめるも馬鈴薯の生の切片は炊殖せざるを以て白米一升に生馬鈴薯の切片一升を混じて炊きたる飯は恰も白米一升五合の飯に相當す(出來上りたる飯に對する馬鈴薯混合歩合は三割三分なり)而して馬鈴薯一貫目よりは切片約三升五合を得べく馬鈴薯一貫目は共同して產地より購入すれば都市にても二十錢位にて得らるべきを以て切片一升の價格は約六錢となる故に今白米一升を六十錢とし白米一升五合を用ふる代りに白米一升到生馬鈴薯切片一升を用ふる場合には二十四錢の利益を得るの計算となる故に馬鈴薯飯は尤も經濟的食物の一と云ふことを得べし
以上は單に容量に依り簡單に計算したるものなるが更に馬鈴薯を營養價に依り白米と對照して計算

すれば概略左の如し

生馬鈴薯と白米との營養價の比較は約一と四の割合なれば(生馬鈴薯は水を含む故にして米も飯になれば同様に多量の水分を含むものとす)今白米

馬鈴薯一貫 相當する馬 鈴薯(一貫 五百二十匁 の價)	白米一升に 相當する馬 鈴薯(一貫 五百二十匁 の價)	馬鈴薯一貫 の價							
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五
一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇
二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇
三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇
四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇
四五〇	四五〇	四五〇	四五〇	四五〇	四五〇	四五〇	四五〇	四五〇	四五〇
五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇
五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇
六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇
六五〇	六五〇	六五〇	六五〇	六五〇	六五〇	六五〇	六五〇	六五〇	六五〇
七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇
七五〇	七五〇	七五〇	七五〇	七五〇	七五〇	七五〇	七五〇	七五〇	七五〇
八〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇
八五〇	八五〇	八五〇	八五〇	八五〇	八五〇	八五〇	八五〇	八五〇	八五〇
九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇
九五〇	九五〇	九五〇	九五〇	九五〇	九五〇	九五〇	九五〇	九五〇	九五〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇

米一升四 十五錢の 場合	米一升五 十錢の場 合	米一升六 十錢の場 合	損益
益 三五	全 四五	全 五五	益 二九六
益 二九六	全 三四八	全 四八	益 二二三
益 二二三	全 二七二	全 三七二	益 一四六
益 一四六	全 一六八	全 二六八	益 七
益 七	全 一三〇	全 一三〇	益 六
益 六	全 四益	全 一四全	損益なし
損益なし	全 三	全 六	損益なし

備考

一、營養價の比較は内務省衛生局出版、營養と食料經濟、卷末の附録食品の三要素成分及其の熱量表に依り計算せり

食 品 白米(水洗) 馬鈴薯
 蛋白質 六、八 一、五
 脂肪 〇、三 〇、一
 含水炭素 七二、〇 一九、二
 熱量 (百瓦に就て) 三二六、〇 八六、〇

二、馬鈴薯か白米に比し熱量少きは主として白米

は乾燥したるものにして馬鈴薯は生の儘なるを以て水分の含量多き爲なり

第三 前記の外馬鈴薯飯の普及奨励に關し特に注意を要する事項

一 馬鈴薯を常食とすれば自然多量の馬鈴薯を要するを以て可成之を廉價に購入する方法を講ずること肝要なり故に共同して主要産地より俵入(普通十三貫乃至十六貫)のものを買入れたるときは貯藏し置くを必要とす

二 馬鈴薯を買入れたるときは貯藏に注意せざる

べからず即ち日光の直射又は温度高き場所に置けば腐敗するを以て涼しき物置内又は土間等に置くを要す然るときは相當長時日貯へ置くことを得るものとす但し鼠害には注意するを要す特に長く貯藏せんとするものは一應俵より取出し日光の當らざる所に二日位陰乾をなし(屋外は夜露を受くる故不可なり)傷のあるもの又は腐りかけたものを全部取り去りて後再び俵に入れて涼しき物置内に貯藏するを可とす前記の方法は何れも冬期前の貯藏法なるを以て冬期に至り凍る様になりたるときは速に地下室に入る、か又は地中に埋藏せざるべからず

三 馬鈴薯の出盛には可成生の馬鈴薯を用ひ余假多きときは馬鈴薯米を製造し多忙なるとき又は馬鈴薯の高價となりたるべきの食用に用意するを利益とす

四 馬鈴薯を切るには適當なる器具又は器械を家庭に用意し置くを必要とす其の器械に就ては段々新しきもの考案せらるゝを以て何れを最良とするが茲に明言すること困難なるも本局に於て今日迄

實驗したるもの内家庭用としては左記のもの比較的適當なるが如し

製造販賣業者の住所氏名(位置名稱) 代 價
 北海道函館區西川町六一 阿部清藏 約二、八〇〇
 同札幌區北一條東四丁目 二二商會 約二、五〇〇
 東京市芝區新堀町三一 國食改良 約二、五〇〇
 千葉縣東葛飾郡船橋町中宿秋山清吉 約〇、六〇〇
 東京市淺草區諏訪町二〇 發明社 約〇、三五〇

五 馬鈴薯は間作又は水田の二毛作其他不便なる耕地又は腐地等の作物として利用することも極めて肝要なりとす

六 日本内地に於ける馬鈴薯主産地方生産額及其の收穫期は左の如し

地方	大正六年度生産額作付 (一千町歩以上)		額	收	種	高
	作付	反別				
東 京	1,239,000	3,600	萬圓	夏薯	六月下	七月下旬
長 崎	1,340,000	3,000	萬圓	秋薯	六月上	七月上旬
新 潟	2,911,000	5,500	萬圓	夏薯	七月下	八月中旬
埼 玉	1,777,500	4,000	萬圓	夏薯	六月下	七月下旬
群 馬	1,101,000	3,300	萬圓	夏薯	七月下	八月中旬
長 野	1,504,800	2,800	萬圓	夏薯	七月下	八月中旬
宮 城	3,615,300	6,600	萬圓	夏薯	七月下	八月中旬
福 島	3,669,200	8,200	萬圓	夏薯	七月下	八月中旬
岩 手	3,015,400	5,900	萬圓	夏薯	七月下	八月中旬
青 森	5,407,100	1,315	萬圓	夏薯	七月下	八月下旬
山 形	2,194,400	2,900	萬圓	夏薯	七月下	八月下旬
秋 田	2,743,000	7,000	萬圓	夏薯	七月下	八月下旬
福 岡	1,177,300	9,600	萬圓	秋薯	十一月下	十二月中旬

地方	計	額
北海道	4,053,000	1,318
其他の地方	14,034,900	3,477
計	18,087,900	2,333

夏薯 七月下 十月下旬

◎衛生講話會狀況

連年舉行シツ、アリシ衛生幻燈講話會ハ夜間開催ヲ餘儀ナクセラル、關係上夏季短夜ノ季節ハ時間ト時季ナドノ上ニ於テ不便尠カラズ秋冬ノ時季ニ於テ之レヲ開催スルノ止ムヲ得サル事トナリタルヨリ折角郡民ノ目ト耳トニ訴ヘテ衛生的思想ノ喚起發達ヲ促シタル事モ聽衆ノ一部ハ全ク之レヲ忘失シ盡シタル翌年晩春初夏ノ候ニ至リ傳染病ノ流行ヲ見ル如キ状態ニ陥リ折角ノ「轉ばぬ先の杖」的催シモ「喧嘩すきての棒ちさり」的結果ニ終リタルヤノ遺憾ヲ感シタル事屢々ナリシモノカラ本年ハ年度ノ初メニ於テ警察署長郡醫師會長町村長等ト協議シ試験的催シノ意味ニ於テ單ニ「講話會」トシテ

一、講師ハ可成通俗的ニ講演スル事

一、可成婦女子を聽講セシムル事

一、一戸一人以上ノ聽講者ヲ出席セシムル事

一、各戸ニ入場券ヲ配布シ來會ノ有無ノ調査ニ使ニスル事

一、小兒ハ可成會場ニ入場セシメザル事

等ノ打合ヲ爲シタル上七月十一日午前九時薄根村ヲ第一トシ八月七日午後六時半東村大字大原ニ於ケルモノヲ最終トシ前後開會日數或拾一日貳拾五ケ所延時間約八十五時間ノ講話會ヲ開催スルヲ得タルハ町村當局各地駐在警察官ハ素ヨリ郡民ノ衛生意想ヲ有爲ナルヲ証スルニ有ルモノト云フベク殊ニ婦人聽講者ガ合計約千五百人ヲ算スルヲ得タル如キハ將來ノ好果ヲ齎ス点ニ於テ欣快ト信スル所ナリ勿論前段既ニ記シタル如ク如斯衛生講話會ハ本年初メテノ催シナルト聽講者ノ思惑モ幾分

アリタルヤノ点モアリ初期ノ成績ヲ舉ゲ得タリト云フ能ハサルモ先々第一回ノ試ミトシテハ稍々「満足」ニ近キ状態ナリト斷スルヲ憚ラス乍去公務上ノ關係等ノ爲メ郡各所ニ普ク出席講演スル能ハザリシハ甚ダ遺憾トスル所ナリト雖講演者ヨリ聽講者ハ何レモ靜肅熱心ニ長時間些ノ倦怠スル所ナリ聽講シタリトノ事ヲ耳ニシ一面本會開催ノ趣旨ニ想到シ輸ニ郡民一般ノ健康上將々幸福上ニ於テ

慶賀ニ堪エザル所ナリ希クハ今後ニ於テ開催セラレベキ此種講話會ニハ極力出席聽講シ以テ不志不議ノ間有形無形ノ利益ヲ得タル事ニ努メラレム事ヲ熱望ス

大正八年八月中旬

利根郡長

因テ開催場所別狀況一覽表ヲ添付セリ

月日	町村	場所	開會時間		聽衆		講師及其演題			
			開會	閉會	男	女				
七、二	薄	根下沼田小學校	午前	二午後	一	三	二〇〇人	五〇人	一七〇人	○赤痢腸チブスノ症狀及其豫防法 ○營養問題ト社會衛生 ○夏季ノ防疫衛生殊ニ飲食物ニ就テ
七、三	古馬	後閑小學校	午	三午後	六	三	二〇	七	二七	○衛生ノ概念ト町村衛生費ノ比較 ○狂犬病及飲食品ニ就テ

七、三		上牧小學校	午後	三午後	六	三	四〇	七	四七	○衛生ノ概念肺結核ニ就テ ○傳染病流行ノ系統及其注意 ○國民体力増進ノ要
七、四	水	幸知小學校	午後	三午後	五	二	一五〇	九〇	三四〇	○衛生講話會開催ノ趣旨 ○體力増進ノ要語及肺結核ニ就テ ○生死率ヨリ見タル國家保健問題
七、四	上	小日向坂東館	午前	九午前	二半	三半	三〇〇	二五〇	五五〇	○衛生講話會開催ノ趣旨 ○體力増進ノ要語及肺結核ニ就テ ○生死率ヨリ見タル國家保健問題
七、六	桃	野月夜野小學校	午後	一午後	五	四	七〇	三〇	一〇〇	○飲用水ニ就テ ○体力増進ノ必要 ○狂犬病及傳染病ニ就テ
七、七	新治	生井小學校	午後	三午後	六	三	一〇〇	二〇	二〇〇	○衛生ノ大意 ○腸チブスノ經過及豫防 ○營養問題ト社會衛生 ○狂犬病及飲食品ニ就テ

七、三	東	小學校午後	三午後六、半三、半	二八	〇	二六	○傳染病ニ就テ ○營養問題ト社會衛生 ○狂犬病及飲食ニ就テ ○肺結核病及花柳病ニ就テ ○平均年齢向上ノ必要ト健康問題 ○保健的生活法 ○体力増進ノ要 ○狂犬病ニ就テ	玉木醫師 辻郡書記 田中警部補
七、四	利南	升形小學校午後三、半午後	六二、半	四〇	一〇	五〇	○花柳病ニ就テ ○肺結核ニ就テ ○保健問題ニ就テ ○傳染病ト衣食住 ○狂犬病	原澤醫師 角田醫會長 辻郡書記 生方醫師 田中警部補
七、五	沼田	記念館午後二、半午後六、半	四二五〇	二〇〇	四五〇		○体力増進ノ要	野中郡長

七、八	布施	新治村役場午後	二午後	六	四	八〇	一〇〇	一八〇	○衛生講話會ヲ望ム ○腸チブスノ經過及豫防 ○營養問題ト社會衛生 ○狂犬病及花柳病ニ就テ	桑原巡查部長 三浦醫師 辻郡書記 田中警部補
七、二〇	田下川田	小學校午前	一〇午後	一	三	二五〇	一〇〇	三〇〇	○腸チブスノ症狀及豫防 ○營養問題ト社會衛生 ○狂犬病及飲食ニ就テ	金谷醫師 辻郡書記 田中警部補
七、三	久呂保森下	小學校午後	三午後五、半二、半	一五〇	五〇	二〇〇			○肺結核ニ就テ ○狂犬病及傳染病ニ就テ ○營養問題ト社會衛生 ○腸チブスノ豫附ト衣食住ニ就テ ○營養問題ト社會衛生 ○狂犬病及飲食ニ就テ	窪田醫師 秋田署長 辻郡書記 生方醫師 田中警部補
七、三	糸井	小學校午前	一〇午後	一	三	二〇	七	二七		田中警部補
七、三	貝之瀬	分敷場午後	三午後	六	三	三〇	八	三六		田中警部補

八、七、東	八、六	八、六	八、一	七、三、二
大原	片品	赤城根	中部	田中
寺午後二、半午後六、半	越本分教場午後二午後六	須賀川小學校午前二午後二	南郷小學校午後二、半午後六、半	田中發知小學校午後二、半午後六、半
四	四	三	四	四
八〇	六〇	三〇	六〇	二〇
四〇	二〇	五	二〇	〇
二〇	八〇	四〇	八〇	二〇
午前二同シ	午前二同シ 但松井醫師ハ不參	○生命論ヨリ保健問題ニ及フ ○狂犬病ニ就テ ○衛生ノ概念 田中警部補	○腸チブス及結核ニ就テ ○保健問題 ○狂犬病 田中警部補	○保健問題ニ就テ ○狂犬病 田中警部補
和田醫師 田中警部補	和田醫師 田中警部補	辻郡書記 田中警部補	辻郡書記 田中警部補	辻郡書記 田中警部補

七、二〇	七、二〇	七、二六	七、二六	七、二六
尾合分教場午後二午後六	高平小學校午後二午後六	場谷地小學校午後二午後五、半三、半	白澤	田中
四	四	三	四	四
一〇〇	二八〇	三〇〇	一〇〇	二〇
二〇	五〇	五〇	二〇	〇
一三〇	二二〇	三三〇	一三〇	二〇
○一般衛生ニ就テ 松井郡醫師	○衛生組合活動ノ要小森警部 ○保健問題ニ就テ 辻郡書記	○保健問題ニ就テ 辻郡書記	○麻疹及腸チブスニ就テ 玉木醫師	○保健問題ニ就テ 辻郡書記
野中郡長	田中警部補	田中警部補	田中警部補	田中警部補

ヲ汲ム水量豊富ナラザルモ井
ヲ掘リ相當ノ設備ヲナサバ多
量ノ汲水ヲナシ得ベシ

四、開墾者ノ現在

開墾者ハ關係町村民多數ナルモ他町村ノモノ他
郡他府縣ノ者モ開墾ニ從事シ開墾地ニ常時居住
スルモノト居村ヨリ通ヒ耕作ヲナスモノトノ二
種アリ郡外及關係町村外ノモノハ全部開墾地ニ
居住シ關係町村ノ者ハ通耕作者多數ニシテ其多
クハ農繁時居住スルタメ小屋ノ設アリ

五、開墾地定住戸數及一戸平均耕作反別

久呂保村地内十九戸 大部分松ノ木 耕作反別
平ニ居住 一戸平均 約三丁
糸之瀬村地内凡七十 大部分大河 一戸平均
原赤谷 約四丁

赤城根村地内 一戸 中倉

六、開墾地借地方法

赤城原新開墾地ハ大部分御料地ニシテ一人一町
歩以上ノ借地ヲ願出スル者ニハ何人ニモ貸付ク

赤城原ニ於ケル開墾ノ方法ハ殆ド全部函掘ト稱
スル方法ニシテ開墾豫定地ヲ巾一丈二尺宛ニ區
劃シ内二尺ヲ深二尺ニ堀起シ其堀起シタル土ヲ
一丈ノ部分ニ均シテ 蕎麥粟大豆ノ類ヲ栽培シ
三ヶ年耕作シ全圃ヲ鋤ニテ打起シテ初メテ熟圃
トナス右ノ如キ方法ニ依ル時ハ開墾簡易ニシテ
從テ開墾費ヲ要スルコト少ク一段歩八九圓ニテ
足ル

八、開墾地附近ノ地價

御料地借地開墾ノ畑ハ熟圃ニテ一段歩貳拾四圓
内外ニテ借地權ノ讓渡行ハレ私有ニ係ル舊開墾
地ハ久呂保上通り一段歩五拾四圓見當赤之瀬系
井上通り段參四拾圓見當赤城根生越上通り貳參
拾圓多那上貳拾圓以下ニシテ赤城原ハ西ヨリ東
ニ向フ程地價安ク從テ地力モ劣レリ御料地開墾
ノ畑モ同様ニシテ久呂保地内礫ヲ含ムコト少ク
地力最モ肥沃ナリ

九、開墾に於ける主要農作物

穀類
麥 作

モノニシテ借地料一町歩七圓五ヶ年一期トシ五
ヶ年經過後ハ繼續ヲ願出スルモノナリ
大正二年以前ハ十ヶ年切替ナリシガ大正二年度
ヨリ五ヶ年切替ナレルモノナリ農業ノ性質上十
ヶ年以上ノ切替ナラデハ住民ノ安心ナク永年作
物タル果樹桑園類ノ栽培ニハ多少ノ不安ナキニ
非ズ尤モ繼續ハ十中八九許可セラル、モノトハ
云ヘト万一國家重要ノ用地トモナラバ如何ナル
運命ニ遭遇スベキヤ住民ノ打撃少ナカラザルヘ
シ茲ヲ以テ從前通り十年切替ノ方法ニ改メラレ
ンコトヲ望ム

赤城原御料地中糸井地内原野ハ糸之瀬養林會社
ノ手ニシ一手ニ借地シ養林會社ヨリ希望者ニ轉
貸スルモノニシテ借地料一町歩八圓ヲ徵ス
養林會社ハ明治二十年ノ創立ニシテ事業方針ハ
元ヨリ殖林ナリシガ其後御料局ノ方針ニ基キ平
且地ハ農耕ニ開墾シ傾斜地ニ營林スル方針ニ改
メタルモノニシテ目下既墾地百六十町營林地凡
百町原野狀況ニアルモノ凡百町有ラス

七、開墾ノ方法

大小麥共適生スルモ肥料施用量少キタメ收穫亦
多カラズ
收穫高 大麥 八斗乃至一石二斗 小麥七八斗
大小豆最モ適作物ナルモ他ニ有利作物ナキタメ
近年連作ヲナス結果收量頗りに減ジタリ
收穫高 大豆 八斗乃至一石 小豆五六斗
蕎麥

大豆ト全様適作物ニシテ生育頗ル可良夏蕎麥及
秋蕎麥兩者ヲ栽培ス夏蕎麥ハ目下花盛リヲ過ギ
曇々タル麥粒雪白ノ花ト廣野ヲ飾ル實ニ一美觀
ト云フヘシ
收穫高夏蕎麥一石二斗乃至一石五斗秋蕎麥ハ霜
害有無ニ依リ收穫量不定ナルモ霜害ハ通風良キ
タメ里ニ比シ比較的少ク相應ノ收穫アリ
殊ニ赤城原産蕎麥ノ風味ノ佳良ナルコトハ人ニ
膾炙セラル、處ニシテ上越開通ノ曉ハ利根名物
トシテ沼田驛ヲ上下スル旅客ノ忘レ能ザ處タル
ベシト信ス

粟稗、黍
孰レモ適生セザルコトナク就中粟ノ栽培最モ

多シ

粟收穫高 八九斗内至一石内外

玉蜀黍

玉蜀黍ハ蕎麥ト等シク最モ適作物ニシテ年ト共ニ栽培者増加ノ傾向アリ

收穫高 一石二斗乃至一石五斗

筍蜀黍

栽培者少ク只一ニ糸井開墾地ニ見ルノミナルモ良ク生育スルヲ以テ開墾地定住農家ノ冬期副業獎勵上將來有望ナリ

陸 稻

栽培者未タ少數ニシテ松ノ木平ニ二三人糸井原ニ二三人ニ過ギザルモ生育可良ニシテ當業者ニ就テ之ヲ質スニ既往數年間ノ試作ニ微スルモ久呂保糸之瀬ニ於テハ見込アリト思料ス只夏季氣温底ク早冷ノ地ナルヲ以テ堆肥等ヲ多量ニ施用スルコトナリ他ノ肥料モ磷酸ヲ除ク外普通作物ノ七八分ノ施肥量トシ肥料配合ヲ合理的ニ追肥ヲ早切上ケトナサバ反三俵内外ノ收穫ハ得ラル、モノト認ム失敗原因ハ一ニ遇肥ニアリトス、

蔬菜類

馬鈴薯

開墾地ヲ通シ頗ル適産地ニシテ之レヲ栽培セサルモノ殆ドナキノ状態ナルモ有望ナル販路ナク僅ニ沼田町ニ供給スルニ過ギザレバ一時ニ二三百人モ搬出セバ買控ラル、有様ナルタメ適産有利ノ作物ナルモ目下ハ只自家煮食用トシテ各二三畝ヲ栽培スルニ過ギズ栽培品種ハ此紫薯ニシテ顆肉シマリ收穫少キモ煮食ニ適スル品種ナリ收穫高 反當 三百貫乃至四百貫

甘 藷

馬鈴薯ト等シク豊産ニシテ栽培者頗ル多ク栽培品種ハ白藷多シ

收穫高 反當 三百貫乃至四百貫

甘 藍

栽培者多數ナラザルモ良ク結球シ賣上金他作物ニ比シ最モ多シ

收穫高 反當 六七百貫

大 根

顆肉美大ナルヲ得ラザルモ味佳良ニシテ有名

糸之瀬村地内 大河原 平 好 桃園約六町步

全 中 野 全 約七町步

糸之瀬地内ノ果樹園ハ剪定管理稍法に叶フト云フテ得ラル、モ久呂保地内ノモノハ剪定整枝不合理ニシテ從テ成績可良ト稱シ得ズ然レドモ之ニ合法的管理ヲ行ハ、意外ノ良成績ヲ舉グルヲ得ベシト信ズ

上記三果樹ノ内桃ハ栽培者多ク生産過剩ノ氣味アレバ將來ハ葡萄及苹果ノ栽培ヲ有利ト思料ス葡萄ハ乾燥地トシテ苹果ハ北海道ニ酷似セル冷涼地トシテ孰レモ天恵ヲ有スルニ於テヲヤ

十、赤城原ニ於ケル副業

イ 養 蠶

赤城原ハ春暖晚ク來リ氣候寒冷ナルカタメ春蠶飼育ニハ好適セザルガ如ク且ツ雪深グシテ根刈中刈ノ桑園テ仕立テ得ザルニ於テヲヤ然シナガラ秋蠶飼育特ニ早掃立秋蠶地トシテハ好適地ト想像セラル何トナレバ其氣候過熱ナラズ暑涼適度ニシテ風通良ク養蠶家ノ最モ恐ル、蒸熱ノ氣更ニナク且加フルニ其夏秋蠶桑園ノ繁茂非常ニ

全

栽培者多カラザルモ色澤鮮麗ナルモノヲ産ス

ハ 果 實 類

赤城原ハ一体ニ礫石層ヲ有シ排水良ク且ツ赤城山南ニ連亘シテ夏季多濕ノ南風ヲ遮ルヲ以テ空氣乾燥シ果樹栽培ニハ好適シ就中桃、葡萄、苹果ニ適ス

開墾地に於る果樹栽培ノ狀況左ノ如シ

久呂保村地内 松ノ木平

佐々木政吉 葡萄園 約三反步

全

南雲 惣吉 桃、苹果園 約四反步

良好ナレバナリ

然ラバ春蠶飼育者ハ多數ナラサルモ秋蠶飼育ノ盛ナルコト春蠶ノ二倍以上ニモ及ブベシ

四、養蜂

赤城原ニ於ケル養蜂家ハ僅ニ横坂真次一人アルノミナルモ蜂巢數基ヲ有シ良好ナル成績ヲ收メツ、アリ聴ク處ニヨレバ一巢ニシテ蜂蜜二斗ヲ採蜜シ得一合二十錢トシ優ニ一巢四拾圓ノ収穫アリト有望ナル一副業トシテ獎勵ノ値アルモノト望ム殊ニ集蜜ノ花ノ多キ春ハ藤ノ花葛ノ花借ハ躑躅卵ノ花草花ノ色々夏ハ滿野ノ蕎麥ノ花秋ハ萩ヲ主トシテ七草ノ花等季節ノ花ノ數限リナケレバ花ヨリ花ヲ獵リテ盡ス實ニ好箇ノ養蜂地ト稱スルヲ得ヘシ

結 論

赤城原發展ノ二大事業

赤城原ニ於ケル有利事業元ヨリ多々アルベシト雖モ用水路開鑿ト馬鈴薯甘藷栽培ノ途ヲ開クトノ二事業ヲ以テ就中重大喫緊ノ事業ト確信ス赤城原ノ發展遲々タル土地ノ價格ノ低廉ナル一ニ

傾斜ノ地ニ據リ或ハ木種ノ架設ノ箇所モ多カルベク土管理設ノ箇所備ハコンクリ堅ノ箇所モアルベク從テ専門家ノ調査設計ニ依ラザレバ能フベキニ非ザルモ今水路一間ノ工費參圓ヲ要スルモノトセバ此工事費貳萬貳千六百八拾圓ヲ要スベシ

企業方法關係町村ノ町村事業トスルモ可又株式組織トシ人類及耕地反別ニ應ジ用水使用料ヲ徴シテ經營スルモ可ナルベシ

二、馬鈴薯、甘藷栽培ニ關スル事業

馬鈴薯甘藷ノ如キ作物ハ單ニ煮食用トシテ生産自ラ制限アルベク如何ニ有利トハ云ヘ之レヲ栽培シ得サルヤ明ナリ又近ク上越鐵道開通ズルトハ云ヘ鐵道便ニテ他地方へ搬出スルハ運賃ノ關係上利益大ナラザル可シ然ラバ之レガ栽培ヲ可能ナラシムルタメニハ是非共之レヲ原料トシテ多量ニ消化シ得ル工業ヲ起サザル可ラズ之レガ企業如何澱粉製造所ノ建設之ナリ

此ハ理由ニヨリ片品川沿岸系井地内ニ一ヶ年二三〇萬貫ヲ消化スル澱粉製造所ヲ建設シ赤城原

用水ノ不便ニ因ス人ノ居住ニハ水ヲ離ルベカラ

ズ農耕ニハ水利自由ナラザル可ラズ里余ノ遠キ急坂溪谷ヲ往返シテ營々トシテ汲水スルカ如キ現狀ニシテ孰ソ將來大ナル發展ヲ望ムベケンヤ大豆ノ連作ノ空敷カラザルコトヲ自覺シツ、有利作物ナキタメ之レガ連作ヲナシツアルガ如キ現狀ニ漫然甘ズルノ無策ヲ許サンヤ

然ラバ此二大事業ハ如何ニシテ解決スベキヤ少シク愚見ヲ陳シテ高教ヲ乞ハントス

一、用水路開鑿工事

用水取入口青木川上流ニ本業牧場牧舎ヨリ下流數丁ノ地點

水路鷹ノ巢、大洞ノ南西ニ起伏スル連山ノ腰部ヲ引回シ庚申松ノ南十數町ノ地點ヲ經糸之瀬地内大河原赤谷開鑿地ノ上ヲ通ジ久呂保地内松ノ木平ニ及ビ永井開鑿ノ南都ヨリ大字永井ノ溪ニ落ス此水路ノ延長凡三里半

工事費見込

水路工事費ノ如キハ門外僅ノ見込ミ得ザル處ナルベク殊ニ取入口ヨリ庚申松南迄ハ水路山腹急

ノ馬鈴薯甘藷栽培者ト特約經營セバ兩々相利シ地方發展上有力ナルコト火ヲ見ルヨリ明ナリ富源開發ニ志ヲ有スル篤志者ノ奮起ヲ切望ス不肖微力ト雖モ亦之レニ力ヲ致サンコトヲ誓フ

澱粉製造事業ノ梗概

一、澱粉ノ種類

澱粉ニハ種々アルモ廣ク需用セララル、ハ甘藷澱粉及馬鈴薯澱粉ノ二種トス

二、澱粉ノ用途

甘藷澱粉ハ主トシテ工業原料ニ馬鈴薯澱粉ハ主ニ食料ニ供セラル

三、澱粉ノ販路

大間々澱粉製造所ノ事例ニ徴スルモ販路ニ就テハ更ニ願慮ヲ要セズ殆ド需用ニ應ジ盡セザル狀況ナリ

四、事業組織

株式組織ヲ以テ經營シ大資本家ヲ避ケ地方農家ノ多數ヲ株主トスルヲ適當ト思料ス

五、事業ノ經營

澱粉量多キ優良種薯ヲ會社ニテ購入シ生産物購買契約ノ下ニ之レヲ株主及當業者ニ配付スルコト

六、本郡ニ於ケル甘藷馬鈴薯ノ生産狀況
目下兩者共煮食専用ノタメ産額從テ多カラザルモ馬鈴薯ノ如キ適地頗ル多ク良品ヲ生産ス甘藷モ亦中部地方ニ於テ有望ナリ特ニ馬鈴薯ノ如キハ山付地方ニシテ麥モ利益多カラズ又水利不便ニシテ稻作モナシ難キ土地ニ良品ヲ而モ豊産スルヲ以テ馬鈴薯ヲ需用スルノ企業起ラバ之レガ栽培著シク増加シ地方ノ富源ヲ開發スルニ至ル可シト信ス

七、損益見込

大間々澱粉製造所ノ營業計算ヲ基礎トシ一ケ年二十萬貫ノ原料ヲ消化スル工場ヲ經營スルモノトシテ
澱粉賣上金三九、〇五〇圓

内澱粉二萬五千貫十五萬六千二百斤一斤二十五錢トシテ(原料ニ對シ一、二、五%)
澱粉賣上代 二、四〇〇圓

殘滓十二萬貫(原料ニ對シ六〇%)一貫目二錢(養豚部へ)
計 四一、四五〇圓

支 出
事務所費工場費 五、八二五圓
大間々澱粉製造所創業第一年ノ費用其儘記載(但シ運賃ヲ除ク)
原 料 費 三〇、〇〇〇圓
馬鈴薯一貫目拾五錢二十萬貫代金
計 三五、八二五圓

損益計算
收支差引 五、六二五圓 純益
右ノ内ヨリ法定積立別途積立及役員賞與金五八〇(大間々ノ通り)ヲ接除シ尙運賃ヲ相當見積ルモ年壹割五分位ノ配當ハ容易ニナシ得ベシ右ハ澱粉製造事業ノミノ損益計算ナルモ其殘滓ヲ以テ副業ニ養豚又ハ養牛ヲナシ其厩肥ヲ以テ原料

栽培ヲ併施セバ其純益頗ル大ナルモノアルベク特ニ本事業ガ耕地廣漠ニシテ有利適産作物少キ

地方ノ富源ヲ開發スル力アルニ於テ之ガ企業ノ地方的ニ有力ナリト確信ス

甘藷馬鈴薯産額調

(大正七年)

町村名	甘藷		馬鈴薯		備考
	作付反別	收穫高價額	作付反別	收穫高價額	
沼田町	一、五〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	六、〇〇〇	一、五〇〇
利南村	一四、〇〇〇	三九、七六〇	七、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一、七五〇
白澤村	一八、〇〇〇	二五、二〇〇	七、〇〇〇	五、六〇〇	一、〇六〇
東品村	三、一〇〇	六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	八、〇〇〇
片品村	三、一〇〇	九〇〇	三、〇〇〇	二、一〇〇	八、〇〇〇
川場村	四、〇〇〇	六、〇〇〇	三、五〇〇	二、一〇〇	二、〇〇〇
池田村	三、八〇〇	五、七〇〇	三、一〇〇	四、三〇〇	五、二五
薄根村	七、五〇〇	二七、〇〇〇	七、〇〇〇	三、八、七〇〇	六、五
古馬收村	八、八〇〇	三、五〇〇	一、五〇〇	四、五〇〇	五、七四〇
水上村	六、〇〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇	四、五〇〇	一、三五

合	計	三、八〇三九
合	計	三、一八〇三六〇
甘	落	九、五八七七八
未製品購入		二、五八六五〇〇
當期純益金		一、三九六四八
合	計	三、一八〇三六〇

利根郡農會樹苗養成獎勵規程

第一條 町村其他ノ団体ニシテ団体用其他個人ニ配布ノ目的ヲ以テ樹苗ヲ養成シタルモノハ本規程ニ依リ獎勵金ヲ交付ス

第二條 本規程ニ依リ獎勵金ヲ交付スベキ樹種ハ左ニ掲クル五種ニシテ其播種面積ハ拾坪以上ノモノニ限ル落葉松、杉、扁柏、赤松、櫟

第三條 獎勵金ハ左ノ各號ニ依リ成績ノ良否ヲ斟酌シテ其金額ヲ定ム

一 播種面積一坪ニ付落葉松ハ金貳圓以内杉、扁柏ハ金四拾錢以内赤松櫟ハ金貳拾錢以内トス

前條及前項ノ苗圃面積ヲ步道ヲ除ク

第四條 苗圃ノ作業ハ左ノ各別ニ依ル外部農會長

ノ指揮ヲ受クベシ

一 苗圃地ハ可成管理上至便ニシテ肥瘠中庸ノ地ヲ選定スルコト

二 苗床ノ巾ハ三尺トシ其兩側ニ巾一尺五寸乃至二尺ノ步道ヲ設クルコト

三 除草ハ年六回以上施肥ハ地味ノ狀況ニ依リ適宜之ヲ行フコト

四 杉及扁柏落葉松ノ播種苗甫ニ在リテハ炎暑期間中日除ヲ爲シ結霜期間中及冬季間ハ霜除並ニ防寒設備ヲ爲スコト

五 播種ハ床面一坪ニ付杉及扁柏ハ二合乃至三合赤松及落葉松ハ一合乃至二合櫟ハ五合乃至一

升トス

第五條 獎勵金ノ交付ヲ受ケントスルモノハ毎年五月三十一日限リ事業後別記第一號様式ニ依リ郡農會長ニ提出スベシ但大正八年度ニ限リ七月二十日マデトス

第六條 獎勵金ハ豫算ノ範圍内ニ於テ之ヲ交付ス

第七條 獎勵金ノ交付ヲ受クルモノハ樹苗ノ處分ニ付団体用ニ供スルモノ、外郡農會長ノ許可ヲ受クヘシ

第八條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタルモノハ別記第二號様式ニ依リ翌年四月末日マデニ樹苗處分届ヲ郡農會長ニ提出スヘシ

第九條 左ノ場合ニ於テハ獎勵金ノ全部又ハ一部ヲ返還セシムルコトアルヘシ

一 申請書又ハ届書ニ虚偽ノ記載ヲナシ其他不正行為アリタルトキ

二 第四條第七條又ハ第八條ノ規定ニ違背シタルトキ

第一號様式

樹苗養成獎勵金交付申請書

何村大字何字何番畑

播種面積何坪

樹種 杉、扁柏

播種量何升杉何升松何升

一坪ノ播種杉何合松何合

作業期間何年何月何日着手何年何月何日終

前記ノ事業實行濟ニ付獎勵金交付相成度此段申請候也

何村(農會、青年會)長

年月日 何 某

郡農會長殿

第二號様式

大正何年度樹苗處分届

町村名	檢丁人員	重症	中症	輕症	疑似症	計	百分比	梅毒	花柳病	麻病	計	百分比
沼田	六					三	四、四二				二	二、六
利南	七					三	二、一					三、七〇
白澤	三					五	一、三八九					
東澤	六		二			一八	三、二					
片品	四					三	六、六七					
川場	一					五	一、三、一六					
池田	二					一	四、〇〇					
薄根	三					一	三、三三					
古馬	四					三	二、六三					
水野	三					一	九、五八					
桃野	三					一	五、二八					

◎大正八年度利根郡壯丁トラホーム、花柳病患者表 (×印ハ入寄留者ヲ示ス)

苗圃所在地	處分	要領			本數	摘	要
		苗圃	移植	他人配			
何村大字	一年生				ス	何村大字何字何番移植 何村何大字 何某外何人	要
	二年生				ギ		
	三年生				ヒ		
	一年生				ノ		
	二年生				キ		
	三年生				マ		
	一年生				ツ		
	二年生						
	三年生						

右及御届候也

何村(農會青年會)長

年 月 日

郡農會長殿

何 某 印

新 治	川 田	久 呂 保	糸 之 瀬	赤 城 根	合 計
× 七 五	× 三 五	四	二〇	二六	六〇 五
七	二	一	一	二	一〇
七	二	四	二	五	四七
二	一	一	一	二	八
七	二	七	三	六	五
九、五八	五、二八	五、九二	五、〇〇	六、三〇八	九、六七
二	一	一	一	三	七
二	一	二	一	一	一〇
二、七	二、六	二、二七	五、〇〇	一、六四	

備考
一、本表ハ壯丁ノミニ就テ調査ス
二、疑似症ハ計及百分比中ヨリ控除セリ

◎壹万圓以上ヲ有スル町村基本財産調

沼田町

一、基本財産設置ノ沿革
本町基本財産ハ明治四十四年中條例ヲ制定シ全年度以後町費中ヨリ毎年度百圓以上財産ヨリ生ズル收入、國稅徵收交付金縣稅徵收交付金、戶籍寄留手數料ヲ積立テ五十年計畫ノ豫定ニテ滿

年ノ曉ニハ七万貳千余圓ト爲スノ計畫ナリ
二、基本財産ノ蓄積及管理
1 町基本財産 財源ハ財産ヨリ生ズル收入國稅徵收交付金、縣稅徵收交付金、戶籍寄留手數料、指定寄附金、及町費ヨリ毎年度百圓以上ヲ蓄積スベキモノニシテ明治四十四年ヲ第一期トシテ漸次五十年ヲ限リ積立テヲ爲シ合

計七萬二千余圓ヲ得ルノ計畫ニシテ現在蓄積額左ノ如シ

- 一、建物六棟價格千五百圓
- 一、株券債券額面七百五拾圓價格七百五拾圓
- 一、現金四百五拾四圓

而シテ現在管理方法ハ建物六棟ハ全部住宅ナルヲ以テ個人ヨリ貸貸料ヲ徵シ貸付シアリ現金ハ銀行預金トナシ株券債券ハ役場金庫ニ格納シテ保管ス

2 罹災救助資金

明治三十四ニ積立ヲ始メ明治三十九年度ヲ以テ蓄積金千圓以上ニ達シタルニ依リ蓄積ヲ止メタリト雖モ爾後利殖ノ方法ヲ計リ大正七年度末ニ至リ左ノ通り現在ス

- 一、株券債券額面千七百九拾圓價格千七百九拾圓
- 一、現金參百圓

合計貳千九拾八圓
而シテ之カ管理ノ方法ハ現金ハ郵便貯金トナ

シ株券債券ハ役場金庫ニ格納シテ保管ス

3 小學校基本財産

蓄積財源ハ基本財産ヨリ生ズル收入、生徒授業料、小學校不用品賣拂代學校園、學校樹栽地其他學校所屬財産ヨリ生ズル收入、指定寄附金及毎年度町費百圓以上ヲ蓄積スルモノニシテ現在左ノ通り蓄積ス

- 一、山林五町八段一畝九步 價額參千八百四十六圓
- 一、建物二棟 價額六百圓
- 一、農工債券 價額四百圓
- 一、現金 千五拾六圓

合計金五千五百四拾貳圓
而シテ山林ハ現ニ植林ヲナシ建物ハ個人ニ貸貸シ現金ハ銀行預金ト爲ス

利南村

一、基本財産設置ノ沿革

- 1 村基本財産ノ部
- (イ) 現金 明治四十三年基本財産蓄積條例ヲ

設定シ基本財産收入、國縣稅交付金、戶籍其他諸手數料其他村會ノ承認ヲ經タル蓄積金ヲ五十年計畫ヲ以テ蓄積シ約一ケ年五千圓ノ收入アルニ至ルヲ以テ目的トシ時ニ有利ノ公債額ヲ購入シ豫算ハ之ヲ特別會計トシテ整理シ力メテ増殖ヲ計レリ大正三年政府ニ於テ國稅徵收交付金増額決定セルヤ納稅獎勵ノ爲メ大正四年度ヨリ國縣稅交付金ノ一半ヲ納稅組合ノ成績良好ナルモノヘ交付スル事ニ變更シタルモ遂年諸稅膨脹ノ折柄交付金ノ收入並ニ其他ノ收入モ隨テ多ク以前ニ不變増殖シツ、アリ大正四年二月蓄積條例ノ一部ヲ改正シ蓄積年限ヲ廢止セリ

ロ 山林 大正四年九月村內ニ於ケル不要存置林賣拂ノ揭示アルヤ急施村會ニ計リ賣拂ヲ出願シ今月六日東京大林區署ヨリ代金九百參圓拾壹錢ヲ以テ山林壹町貳畝十歩ノ拂受ヲ爲シ藪草ヲ芟拂ヒ櫻樹ヲ殖栽古代ノ風致ヲ修飾シ又扮其他雜木ヲ保護シ之ガ繁茂ヲ計リ以テ現在ノ狀態ニ至ル

(ハ) 株券債券 本縣農工銀行創立ニ際シ株券(貳拾圓券)四枚ヲ應募シ又郵便貯金ニ比シ利廻リ良好ニシテ管理ノ輕便ナルヲ以テ東京府農工銀行債券百圓券貳枚ヲ大正三年三月購入シ今年二月二十五日全債券百圓券三枚群馬縣農工銀行債券百圓券二枚大正四年三月三十一日東京府農工銀行債券百圓券四枚ヲ購入シ内東京府農工銀行債券十九回發行百圓券四枚ハ大正六年十一月七日群馬縣農工銀行債券十一回分百圓券二枚ハ大正七年八月十一日何レモ償還シタルヲ以テ大正七年八月政府臨時國庫證券は號五百圓參枚百圓券四枚ヲ購入セリ

2 罹災救助資金

イ 現金 明治三十四年罹災救助資金蓄積條例ヲ設定シ爾來引續キ村費參拾圓縣補助金並ニ利子ヲ蓄積シ且ツ有利ナル公債ヲ購入シ力メテ之ガ増殖ヲ計リ明治四十四年蓄積制限額ヲ二萬圓ト爲シタルモ大正六年三月二十三日其ノ制限ヲ廢止セリ

而シテ會計ハ總テ特別會計ニ依リ整理シ現金ハ之ヲ郵便貯金トシテ保管ス

ロ 債券 明治四十五年五月四日群馬縣農工銀行債券百圓券五枚大正三年二月二十六日群馬縣農工銀行債券壹枚大正四年三月三十一日百圓券一枚ヲ購入シタルモ内二枚ハ大正七年八月十一日何レモ償還シタルヲ以テ今年八月二十六日帝國臨時國庫證券は號五百圓一枚全百圓一枚ヲ購入セリ

3 小學校基本財産

イ 現金 明治四十年小學校基本財産蓄積並ニ管理規程ヲ設定シ小學校生徒報恩寄附金、學校所屬財産ヨリ生スル收入有志寄附金其他ヲ積立テ基本財産ト爲シ來リシガ明治四十四年規程ヲ改正シ積立金ヲ増額シ一層基本財産ノ増殖ヲ計レリ而シテ今年既定ノ積立金千參百參圓五錢並ニ村費ヲ併セテ金千四百八圓八拾錢ヲ以テ川田村不存置林十三町八段六畝十七步ヲ拂下ヲ爲シ且ツ利殖良好ナル債券ヲ購入シ大正六年三月規定ヲ條例ニ引直シ之カ増

殖ヲ確立シ會計ハ特別會計ト爲シテ整理シ現金ハ郵便貯金トシテ保管セリ

ロ 山林 明治四十四年川田村不要存置林十三町八段六畝十七步代金千四百八圓八拾錢ヲ以テ拂受ヲ爲シ今年杉榎松ノ殖樹ヲ爲シ爾後年々引續キ補植ヲ行ヒ下刈ハ各區ヨリ人夫ヲ出シ區域ヲ定メテ之ヲ行ヒツ、アルモ地質地形ノ關係上冬期立枯ヲ出スモノ年々多ク之ガ善后策研究中ナリ今年十二月川場村不要存置林(原野)十三町三段五畝十五步ヲ代金千四百參拾七圓貳拾錢ヲ以テ購入シ本縣ヨリ斯業ニ關スル豆山技手ヲ聘シ施業方法ヲ確立シ荆薊ヲ拂ヒ適當ノケ所ヲ撰ヒ松杉檉類ヲ植付ケ自然木ニ適セルケ所ハ下刈ヲ爲シ之カ保護生育ヲ計レリ手入ハ總テ區民ノ賦役トシテ年々之ヲ行ヒ成績良好ナリ

ハ 有價證券 大正二年二月東京府農工銀行債券百圓券三枚ヲ購入シタルモ大正三年二月群馬縣農工銀行債券千圓券一枚ヲ購入セムトスルニ當リ現金ノ關係上村基本財産へ組替へ

現金トナシ而シテ前記債券千圓券ヲ購入セリ
 大正四年三月群馬縣農工銀行債券百圓券三枚
 購入セルモ大正七年八月十一日償還ニ遇ヒタ
 ルヲ以テ全年八月二十六日帝國臨時國庫債券
 は號五百圓券二枚は號百圓券貳枚ヲ購入シ以
 テ現在ニ至レリ

二、基本財産ノ蓄積及管理
 蓄積ノ財源等ニ關シテハ各基本財産沿革ノ部ニ
 概説シアリ蓄積ニ關スル豫定方針等未ク確立セ
 ザルモノクテ年ノ基本財産ノ收入ヲ以テ七分以
 ノ歳出經常費ニ充當スルヲ得ルマデ蓄積セムト
 ス

基本財産名	種類	額面又ハ金額	現在額	管理方法
基本財産	山林	一、五〇〇	一町二畝十歩	沿革ノ部ニ記シタルヲ以テ省畧
國債證券	國債證券	四〇〇	四〇〇	
群馬縣農工銀行株券	株券	六〇〇	六〇〇	
羅災救助資金	國庫證券	五〇〇	五〇〇	普通基本現金金郵便貯金トス
	國庫證券	一〇〇	一〇〇	
	現金	一〇〇	一〇〇	郵便貯金トセリ

十七八年戰役中ハ積立金ヲ以テ國庫債券ニ應シ
 聊カ戰費ノ充實ニ寄與シタリ爾後明治四十三年
 迄ハ毎年課税ニヨリ積立ノミニシテ其ノ間小學
 校講堂建築ニ際シテハ千五百圓ヲ一時建築費
 ニ充用セシコトアリ、明治四十四年以降ハ一層
 保管ニ確實ヲ期スル爲メ從來ノ銀行貯金全部ヲ
 擧ゲテ郵便貯金ニ改メ條例ニヨリ交付金手數料
 等ハ全部蓄積ス、明治四十五年ニハ役場廳舎建
 築費ニ千三百圓ヲ一時充用シタリ、大正二年ニ
 至リ金額漸ク大ヲ致シタルヲ以テ有價證券ノ買
 入ニ着手シ勸業債券農工債券千七百圓ヲ購入セ
 リ其他ハ保管ノ確實ヲ期スルハ勿論ナルモ基本
 財産タル以上收益ノ多キヲ望ム關係上遊金ハ上
 グテ之ヲ農工銀行債券應募特約預金ト爲スノ方
 針ヲ執ル大正四年一月更ニ條例ヲ改正シ大正六
 年十二月小學校舎増築費貳千八百圓ヲ一時充用
 シタル外概テ有價證券ノ購入ニ充テ利殖ヲ計リ
 今日ニ至レリ

二、基本財産ノ蓄積及管理
 薄根村基本財産蓄積條例ニ依ル蓄積種目左ノ如
 一、基本財産ヨリ生ズル收入
 二、國稅徵收法並縣稅徵收ニ關スル規程ニ依リ
 收入スル交付金二分ノ一
 三、村條例ニ依リ收入スル手數料
 四、戶籍法及寄留手續令ニ依リ收入スル手數料
 五、不用品賣拂代 但シ學校不用品賣拂代ヲ除
 ク
 六、歲計剩餘金ノ七分ノ一以内但シ學校費ニ屬
 スル分ヲ除ク
 七、指定寄附金蓄積財源ハ之ヲ條例ニ明示セル
 モ而モ一定方針ナカルヘカラサルヲ察シ大正
 二年先ツ蓄積目案ヲ定メ大正四年更ニ左ノ如
 キ目案ヲ定メテ現今ニ及ブ

薄根村基本財産蓄積目案表

小學校 基本財産	群馬縣農工銀行	五〇〇	五〇〇	沿革ノ部ニ概況ヲ記シタルニ依リ省略
債	山	二七丁二段二畝	一、〇〇〇	
國庫證券	上	一、〇〇〇	一、〇〇〇	
農工銀行債券	金	一、〇〇〇	三九四	郵便貯金トス
現				

薄根村

一、基本財産設置ノ沿革
 自治制施行セラレ村費ノ財源ハ之ヲ基本財産ノ
 收益ヲ以テ充ツベキ旨定メラル、ヤ本村ハ直ニ
 基本財産ノ蓄積ニ着手シタリ、始メテ舊凶歉備
 積立及仕方付圍糶賣却代金トシテ利根並勢多郡
 役所ヨリ割戻サレタル金參拾參圓拾七錢ヲ積立
 テタルハ實ニ明治二十二年十二月二十六日ナリ
 トス當時草創ノ際トテ管理方法ノ定メナカリシ
 爲メ之ヲ個人ニ年一割ノ利子ニテ貸付利殖シタ

リ、全二十六年一月學校組合解散ノ爲割戻シタ
 ル金九拾貳圓拾錢五厘モ同様ノ管理ニ付シ、三
 十二年三月久米民之助、坂西ヤス兩人ヨリ寄附
 金拾四圓五拾九錢一厘ヲ加へ、三十七年三月ニ
 至リ總額三百八拾余圓ニ達シタリ、時運ノ進歩
 ハ理事者ノ覺醒ヲ促シ三十六年六月四日蓄積條
 例ヲ制定シ積極的ニ造成ノ方針ヲ定メ先ツ村費
 ヨリ二百圓ヲ積立テタリ、同時ニ蓄積金ハ之ヲ
 沼田貯蓄銀行ニ預入ル從來基本財産ハ現金管理
 ナリシガ條例制定ノ結果運用ノ範圍ヲ擴張シ三

年次	年 度	年度始元金高	利 子	當年度内蓄積高 (上記利子除)	年度末現在高
一	大正三年度	二、七三八、一〇四	一三六、九〇五	四六三	三、三七七、〇〇九
二	四年度	三、三三七、〇〇九	一六六、八五〇	一、一三七	四、七四〇、八五九
三	五年度	四、七四〇、八五九	二二七、〇四二	一、一九八	六、一七五、九〇一
四	六年度	六、一七五、九〇一	三〇八、七九五	五〇九	六、九九三、六六六
五	七年度	六、九九三、六六六	三四九、六八四	五〇九	七、八五二、三八〇
六	八年度	七、八五二、三八〇	三九二、六二九	五〇九	八、七五三、九九九
七	九年度	八、七五三、九九九	四三七、六九九	五〇九	九、七〇〇、六九八
八	十年度	九、七〇〇、六九八	四八五、〇三四	五〇九	一〇、六九四、七三三
九	十一年度	一〇、六九四、七三三	五三四、七三六	五〇九	一一、七三八、四六八
一〇	十二年度	一一、七三八、四六八	五六六、九三三	五〇九	一二、八三四、三九一
一一	十三年度	一二、八三四、三九一	六四七、七九一	五〇九	一三、九八五、一〇〇
一二	十四年度	一三、九八五、一〇〇	六九九、二五五	五〇九	一五、一九三、三六五
一三	十五年度	一五、一九三、三六五	七五九、六六八	五〇九	一六、四六一、〇三三

一四全	十六年度	一六、四六二、〇三三	八三三、一〇二	五〇九	一七、七九四、一五四
一五全	十七年度	一七、七九四、一三四	八八九、七〇六	五〇九	一九、一九二、八四〇
一六全	十八年度	一九、一九二、八四〇	九九九、六四二	五〇九	二〇、六六一、四八二
一七全	十九年度	二〇、六六一、四八一	一、〇三三、〇七四	五〇九	二二、二〇三、五五六
一八全	二十年度	二二、二〇三、五五六	一一一〇、一七七	五〇九	二三、八三三、七三三
一九全	二十一年度	二三、八三三、七三三	一一九一、一三六	五〇九	二五、五三三、八六九
二〇全	二十二年度	二五、五三三、八六九	一二七六、一四三	五〇九	二七、三〇八、〇三二
二一全	二十三年度	二九、三〇八、〇三二	一、三六三、四〇〇	五〇九	二九、一八二、四二二
二二全	二十四年度	二九、一八二、四二二	一、四五六、一一〇	五〇九	三一、一五〇、五三三
二三全	二十五年	三一、一五〇、五三三	一、五五七、五三六	五〇九	三三、二一七、〇五八
二四全	二十六年	三三、二一七、〇五八	一、六六〇、八五二	五〇九	三五、三八六、一九〇
二五全	二十七年	三五、三八六、九一〇	一、七六九、三四五	五〇九	三七、六六五、二五五
二六全	二十八年	三七、六六五、二五五	一、八八三、二六二	五〇九	四〇、〇五七、五二七
二七全	二十九年	四〇、〇五七、五二七	二、〇〇二、八七五	五〇九	四二、五六九、三九二

二八全	三十年度	四二、五六九、三九二	二、二二八、四六九	五〇九	四五、二〇六、八六一
二九全	三十一年度	四五、二〇六、八六一	二、二八〇、三四三	五〇九	四七、九七六、二〇四
三〇全	三十二年	四七、九七六、二〇四	二、三九八、八一〇	五〇九	五〇、八八四、〇一四
三一全	三十三年	五〇、八八四、〇一四	二、五〇四、一〇〇	五〇九	五三、九三七、二二四
三二全	三十四年	五三、九三七、二二四	二、六九六、八六〇	五〇九	五七、一四三、〇四七
三三全	三十五年	五七、一四三、〇四七	二、八五七、〇五三	五〇九	六〇、五〇九、二二七
三四全	三十六年	六〇、五〇九、二二七	三、〇二五、四六一	五〇九	六四、〇四三、六八八
三五全	三十七年	六四、〇四三、六八八	三、二〇二、一八四	五〇九	六七、七五四、八七二
三六全	三十八年	六七、七五四、八七二	三、三八七、七四三	五〇九	七一、六五一、六一五
三七全	三十九年	七一、六五一、六一五	三、五八一、五八〇	五〇九	七五、七四三、一九五
三八全	四十年	七五、七四三、一九五	三、七七八、一五九	五〇九	八〇、〇三九、三五四
三九全	四十一年	八〇、〇三九、三五四	四、〇〇一、九六七	五〇九	八四、五五〇、三二二
四〇全	四十二年	八四、五五〇、三二二	四、一三七、五二六	五〇九	八九、二八六、八三七
四一全	四十三年	八九、二八六、八三七	四、四六四、三四二	五〇九	九四、二六〇、一七八

四二全	四十四年度	九四、二六〇、一七六	四、七三、〇〇八	五〇九	九九、四八二、一八六
四三全	四十五年度	九九、四八二、一八六	四、九四、一〇九	五〇九	一〇四、九六五、二九五
四四全	四十六年度	一〇四、九六五、二九五	五、一四八、二六四	五〇九	一一〇、七三二、五五九
四五全	四十七年度	一一〇、七三二、五五九	五、五三六、二七	五〇九	一二六、七六七、六八六
四六全	四十八年度	一二六、七六七、六八六	五、八三八、三六四	五〇九	一三三、一五、〇七〇
四七全	四十九年度	一三三、一五、〇七〇	六、一五五、七五三	五〇九	一三九、七七九、八三三
四八全	五十年度	一三九、七七九、八三三	六、五八八、九九一	五〇九	一四六、七七七、八一四
四九全	五十一年度	一四六、七七七、八一四	六、八三八、八九〇	五〇九	一五二、一五、七〇四
五〇全	五十二年度	一五二、一五、七〇四	七、二〇六、二八五	五〇九	一五八、四〇、九八九

備考

一、利子ハ通シテ年五分トシテ計算セリ
 一、條例ノ規程ニ依リ蓄積スベキ種目並其ノ一ケ年度ノ概算額ハ左ノ通りノ
 國度及縣交付金ノ二分ノ一
 戸籍手數料

金貳百五拾圓
 金貳拾八圓

年次	年 度	年度始元金高	利 子	當年度内蓄積高 (上記利子ヲ除)	年度末現在高
一	大正三年度	一、三六一、九三六	六八、〇九六	八五四	二、二六四、〇三三
二	四年度	二、二六四、〇三三	一一三、一〇一	六七〇	三、〇五七、一三三
三	五年度	三、〇四七、二三三	一五二、三六一	六七〇	三、八六九、五九四
四	六年度	三、六八九、五九四	一九三、四七九	六七〇	四、七三三、〇七三
五	七年度	四、七三三、〇七三	二三六、六五三	六七〇	五、六三九、七二五
六	八年度	五、六三九、七二六	二八一、九八六	六七〇	六、五九一、七二二
七	九年度	六、五九一、七二二	三三九、五八五	六七〇	七、五九一、二九七
八	十年度	七、五九一、二九七	三七九、五六四	六七〇	八、六四〇、八六一
九	十一年度	八、六四〇、八六一	四三三、〇三三	六七〇	九、七四二、九〇四
一〇	十二年度	九、七四二、九〇四	四八七、一四五	六七〇	一〇、九〇〇、〇四九
一一	十三年度	一〇、九〇〇、〇四九	五四五、〇〇一	六七〇	一二、一五、〇五一
一二	十四年度	一二、一五、〇五一	六一五、七五二	六七〇	一三、三九〇、八〇三
一三	十五年度	一三、三九〇、八〇三	六八九、五九四	六七〇	一四、七三〇、三四三

證明免覽手數料

寄留手數料

不用品拂代

歲計剩余金七分以内

計金五百九圓

(之レヲ每當該年度内蓄積高ト豫定ス)

一、右自案ハ五十年次大正五十二年度末ニ於テ左ノ金額ヲ造成スル豫定ナリ

一金拾五万千八百四拾圓九拾八錢九厘

二、基本財産ノ種類

現金

金壹千九百七拾八圓五拾壹錢

株式會社群馬縣農工銀行へ年利六分ヲ以テ預金

金壹百貳拾貳圓八拾貳錢

郵便貯金局へ年利四分八厘ヲ以テ預入

金壹千八百圓

校舍増築資金トシテ年利六分ニテ薄根村へ貸付

計金參千九百壹圓參拾參錢

有價證券

證券ノ名稱	額	面	管	理	方	法
四十八回勸業債券		七〇 ^附	郵便貯金局へ保管	依託		(五分利)
十四回農工債券		五〇〇	役場金庫ニ格納			(六分利)
十六回全上		一、八〇〇	全上			(全)
は 號國庫債券		一、〇〇〇	全上			(五分利)
計		三、三七〇				

一、小學校基本財産設置ノ沿革

古馬牧村有志牧眞庭澳之助氏カ元四釜學校資本
 金貳拾五圓ヲ寄附セラレタルヲ始トス、是レ實
 ニ明治二十六年四月一日ニシテ小學校ノ爲メ基
 本財産ヲ造成セシ第一歩トス、該金ハ之ヲ年利
 一割ニテ個人ニ貸附シ收益ハ多年教育費ニ編入
 シ四十年ニ及フ造成開始以來十有余年ヲ閱シ一
 錢ノ増殖ヲモセサリシハ造成ニ關關スル規程ノ
 存セザリシ爲ナリ斯クテハ村費ノ過半ヲ要シ將

來益々増加スベキ教育資金ノ充實上遺憾ナリト
 シ明治四十年年度蓄積管理規程ヲ制定シ兒童報恩
 寄附金教育費殘金等積極的ニ蓄積ヲ開始シ同時
 ニ從來個人預リナリシヲ改メテ銀行貯金トス
 日露戰役當時村長タリシ長谷川專之助氏功勞者
 ニヨリ勳七等青色桐葉章並金五拾圓ヲ賜ヒタル
 記念トシテ公債證書額面金五拾圓寄附アリ明治
 四十三年ニハ講堂建築費ニ金四百五拾圓ヲ一時
 充用シテ募債手數ト急激ナル村稅増徴トヲ避ク

ル事ヲ得タリ明治四十四年ニ至リ遂次増額スル金額ヲ一層保管ノ確實ヲ期スル爲メ郵便貯金ニ改メタリ

明治四十五年ニハ役場廳舎建築ニ際シ金九百圓ヲ一時充用ス大正二年ニ至リ一層利殖ノ速ナラムコトヲ念トシ有價證券ノ購入ヲ開始ス大正四年ニ至リ現今ノ如キ條例ヲ制定シ交付金ノ如キモ其ノ一半ヲ積立ルコトニ定メタリ大正四年ニ至リ御大典記念トシテ基本財産林ノ拂下ヲ受ケ同年以降三ヶ年間ニ金參千百貳拾壹圓參拾錢ヲ支出セリ

一、基本財産ノ蓄積及其ノ管理

薄根尋常高等小學校基本財産蓄積條例ニ依ル蓄積目左ノ如シ

一、小學校基本財産ヨリ生スル收入

二、小學校授業料

三、小學校用品賣拂代

四、教育費ニ屬スル剰余金但シ歲計剰余金ニシテ其ノ額ヨリ少キ場合ハ歲計剰余金ヲ以テ

限度トス

一四 全	十六年度	一四、七三〇、三四三	七三六、五七	六七〇	一六、一三六、八六〇
一五 全	十七年度	一六、一三六、八六〇	八〇六、八四七	六七〇	一七、六三三、七〇三
一六 全	十八年度	一七、一六三、七〇三	八八〇、六八五	六七〇	一九、一六四、三八八
一七 全	十九年度	一九、一六四、三八八	九五八、二九	六七〇	二〇、七九二、六〇七
一八 全	二十年度	二〇、七九二、六〇七	一、〇三九、六三〇	六七〇	二二、五〇一、二三七
一九 全	二十一年度	二二、五〇一、二三七	一、一五五、一一	六七〇	二四、二九七、三四八
二〇 全	二十二年度	二四、二九七、三四八	一、二四八、六七	六七〇	二六、一八二、二五
二一 全	二十三年度	二六、一八二、二五	一、三〇九、一一〇	六七〇	二八、一六一、三五
二二 全	二十四年度	二八、一六一、三五	一、四〇八、〇六六	六七〇	三〇、二九九、三九二
二三 全	二十五年	三〇、二九九、三九二	一、五一、九九九	六七〇	三三、四二一、三六〇
二四 全	二十六年	三二、四二一、三六〇	一、六二二、〇六八	六七〇	三四、七二二、四三八
二五 全	二十七年	三四、七二二、四三八	一、七五三、六二二	六七〇	三七、一八、〇四九
二六 全	二十八年	三七、一八、〇四九	一、八五五、九〇二	六七〇	三九、六四三、九六一
二七 全	二十九年	三九、六四三、九五一	一、九八二、一九七	九七〇	四二、二九六、一四八

五、學校園、學校樹栽地、全農業實習地其他學校所屬財産ヨリ生ズル收入
六、國稅徵收法、並縣稅徵收ニ關スル規程ニ依リ收入スル交付金二分ノ一
七、指定寄附金

蓄積並管理規程ヲ定ムルヤ兒童ノ卒業報恩寄附金並毎月一錢報恩寄附金ヲ主トシ大正二年蓄積目案表ヲ定メ大正四十五年度末ニ於テ金四万八千七拾貳圓余ヲ得ルノ計畫ヲ立テタルモ逐年増加著シキ教育資金トシテ半世紀后ノ四万圓寒心ニ堪ヘストナシ大正四年條例改正ト同時ニ更ニ左ノ如キ日案ヲ定メ現今ニ及

薄根尋常高等小學校基本財産蓄積目案表

備考

一、利子ハ通シテ年五分トシテ計算セリ

四二	全	四十四年度	九六、八七四、五五五	四、八四三、七二七	六七〇	一〇一、三八八、二八二
四三	全	四十五年度	一〇一、三八八、二八二	五、二九四、四二四	六七〇	一〇八、一七七、六九六
四四	全	四十六年度	一〇八、一七七、六九六	五、四〇八、八八四	六七〇	一一四、二五六、五八〇
四五	全	四十七年度	一一四、二五六、五八〇	五、七二二、八二九	六七〇	一二〇、六三九、四〇九
四六	全	四十八年度	一二〇、六三九、四〇九	六、〇三二、九七〇	六七〇	一二七、三四一、三三九
四七	全	四十九年度	一二七、三四一、三三九	六、三六七、〇六八	六七〇	一三四、三七八、四四七
四八	全	五十年度	一三四、三七八、四四七	六、七二八、九三三	六七〇	一四一、七六七、三六九
四九	全	五十一年度	一四一、七六七、三六九	七、〇〇八、三六八	六七〇	一四九、五五五、七三七
五〇	全	五十二年度	一四九、五五五、七三七	七、四七六、二八六	六七〇	一五七、六七二、〇三三
五一	全	五十三年度	一五七、六七二、〇三三	七、八八三、六〇一	六七〇	一六六、三五、六四四
五二	全	五十四年度	一六六、三五、六四四	八、三三二、二八一	六七〇	一七五、二〇六、九〇五
五三	全	五十五年度	一七五、二〇六、九〇五	八、七六〇、三四五	六七〇	一八四、六三七、二四〇

二八	全	三十年度	四二、二九六、一四八	二、一四、八〇七	六七〇	四五、〇八〇、九五五
二九	全	三十一年度	四五、〇八〇、九五五	二、二五四、〇四七	六七〇	四八、〇〇五、〇〇一
三〇	全	三十二年度	四八、〇〇五、〇〇一	二、四〇〇、一五〇	六七〇	五一、〇七五、二五二
三一	全	三十三年度	五一、〇七五、二五二	二、五五三、七六一	六七〇	五四、一九九、〇一四
三二	全	三十四年度	五四、一九九、〇一四	二、七二四、九五、	六七〇	五七、六八三、九六四
三三	全	三十五年度	五七、六八三、九六四	二、八八四、一九八	六七〇	六一、二三八、一六二
三四	全	三十六年度	六一、二三八、一六二	三、〇六一、九〇八	六七〇	六四、九七〇、〇七〇
三五	全	三十七年度	六四、九七〇、〇七〇	三、二四八、五〇三	六七〇	六八、八八八、五七三
三六	全	三十八年度	六八、八八八、五七三	三、四四四、四二八	六七〇	七三、〇〇三、〇〇一
三七	全	三十九年度	七三、〇〇三、〇〇一	三、六五〇、一五〇	六七〇	七七、三三三、一五一
三八	全	四十年度	七七、三三三、一五一	三、八六六、一五七	六七〇	八一、八五九、三〇八
三九	全	四十一年度	八一、八五九、三〇八	四、〇九一、九六五	六七〇	八六、六二二、二七三
四〇	全	四十二年度	八六、六二二、二七三	四、三三一、一三三	六七〇	九一、六三三、三八六
四一	全	四十三年度	九一、六三三、三八六	四、五六一、一六九	六七〇	九六、八七四、五五五

一、條例ノ規程ニ依リ蓄積スヘキ種目並其ノ一ヶ年度ノ概算額左ノ如シ

國庫及縣交付金ノ二分ノ一
 報恩寄附金(就學生毎月一錢)
 全 上(卒業生)
 小學校樹栽地收入
 授業料
 小學校用品拂代
 教育歲計剰余金
 但シ特志者寄附金ハ計上セズ
 計金六百七拾圓 (之レヲ毎年度内蓄積高ト豫定ス)

右目案ハ五十三年次大正五十五年度末ニ於テ左ノ金額ヲ造成スル豫定ナリ
 金拾八萬四千六百參拾七圓貳拾四錢
 薄根尋常高等小學校基本財産林施業要領別用ノ通リ
 基本財産ノ種類
 現金

金貳百五拾圓
 金五拾五圓
 金拾圓
 金八拾圓
 金九拾圓
 金五圓
 金百八拾圓

一金壹千壹百參拾圓拾八錢
 株式會社群馬縣農工銀行へ年利六分ヲ以テ預金
 一金貳百五拾貳圓五拾四錢四厘
 有 價 証 券

郵便貯金局へ年利四分八厘ヲ以テ預入
 現金
 一金參千圓
 計金四千參百九拾圓七拾貳錢四厘

證券ノ名稱	額	面	管 理 方 法
特別公債證書		五〇 _円	役場金庫へ格納 (五分利)
四十八回勸業債券		一〇〇	郵便貯金局へ保管依托 (全)
十六回農工債券		五、二〇〇	役場金庫へ格納 (六分利)
に 號國債々券		三、〇〇〇	全 (五分利)
計		八、三三〇	

土 地

一金貳千八百五拾圓
 山林十八町三段歩ノ價格
 立木價格
 一金壹千八百六拾七圓

右土地ニ生立スル立木價格

一、罹災救助資金設置ノ沿革
 明治三十四年三月薄根村條例第五號罹災救助資金蓄積條例制定シ年々村費ヨリ積立金ヲ爲ス現今條例ハ大正四年一月改正セラレタルモノナリ

一、基本財産ノ蓄積及管理
 罹災救助資金蓄積條例ニ依ル蓄積種目左ノ通り
 一、罹災救助資金ヨリ生ズル收入
 二、救助ニ關スル縣及郡補助
 三、毎年度村費ヨリ三拾圓以上

四、指定寄附金大正元年迄ハ現金ニテ利殖ヲ計
 リシガ同年有價證券ノ購入ヲ開始セリ大正三
 年ニ至リ五十年后ニ於テ貳万余圓ヲ造成スベ
 ク別表目案表ヲ定メタリ

罹災救助資金蓄積目案表

年次	年 度	年度始元金高	利 子	當年度内蓄積高 (上記利子除)	年度末現在高
一	大正三年度	一、四八八、四〇九	七四、四一〇	七四、四一〇	一、六三三、八二九
二	四年度	一、六三二、八二九	八一、六四一	八一、六四一	一、七六四、四七〇
三	五年度	一、七六四、四七〇	八八、二二三	八八、二二三	一、九〇二、六九三
四	六年度	一、九〇二、六九三	九五、二三四	九五、二三四	二、〇四七、八二七
五	七年度	二、〇四七、八二七	一〇一、三九一	一〇一、三九一	二、一〇〇、二二八
六	八年度	二、一〇〇、二二八	一〇、〇一〇	一〇、〇一〇	二、三六〇、三三八
七	九年度	二、三六〇、三三八	一一、〇一一	一一、〇一一	二、五三八、二三九
八	十年度	二、五三八、二三九	一二、四二二	一二、四二二	二、七四〇、六五〇

九	全	十一年度	二、七四〇、六五〇	一三五、一三三	五〇	二、八八九、八八二
一〇	全	十二年度	二、八九九、八八一	一四四、四九四	五〇	三、〇八四、三七六
一一	全	十三年度	三、〇八四、三七六	一五四、二二八	一	三、三三八、五九四
一二	全	十四年度	三、二三八、五九四	一六一、九二九	一	三、五〇〇、五三三
一三	全	十五年度	三、五〇〇、五三三	一七〇、〇二六	一	三、五七〇、五五九
一四	全	十六年度	三、五七〇、五五九	一七八、五七七	一	三、七四九、〇七六
一五	全	十七年度	三、七四九、〇七六	一八七、四五三	一	三、九三六、五二九
一六	全	十八年度	三、九三六、五二九	一九八、八二六	一	四、一三三、三五五
一七	全	十九年度	四、一三三、三五五	二〇六、六六七	一	四、一三三、三五五
一八	全	二十年度	四、三三〇、〇一一	二一七、〇〇一	一	四、三三〇、〇一一
一九	全	二十一年度	四、五三七、〇三三	二二七、八五一	一	四、五三七、〇三三
二〇	全	二十二年度	四、六四四、八七四	二三九、〇四三	一	四、六四四、八七四
二一	全	二十三年度	五、〇四一、一七七	二五一、一〇五	一	五、〇四一、一七七
二二	全	二十四年度	五、二七五、三二三	二五三、六六六	一	五、五三九、〇八八

備考

一、條例ノ規程ニ依リ蓄積スベキ金額ハ金五拾圓トシ大正十二年度以後ハ積立ヲ爲サズ
 一、利子ハ通シテ年五分ヲ以テ計算セリ
 一、右目案ハ五十年次大正五十三年度末ニ於テ左ノ金額ヲ造成スル豫定ナリ
 金貳万千七百拾參圓九拾壹錢壹厘
 基本財産ノ種類

現金
 金壹百貳拾參圓九拾壹錢九厘
 郵便貯金局へ年利四分八厘ニテ預入
 金五拾六圓五拾錢
 株式會社群馬縣農工銀行へ年利六分ニテ預入
 計金壹百八拾圓四拾壹錢九厘
 有價證券

證券ノ名稱	額	面	管理方法
七回農工債券		一、〇〇〇	役場金庫ニ格納 (六分五厘利)
四十八回勸業債券		一〇〇	郵便貯金局へ保管依托 (五分利)
十四回農工債券		六〇〇	役場金庫格納 (六分利)
十六回農工債券		四〇〇	全上 (全)
計		二、一〇〇	

桃野村

一、村基本財産設置ノ沿革
 明治二十二年町村制實施ニ當リ本村基本財産積立ヲ計畫シ今日ニ及ヘリ

二、村基本財産ノ管理及蓄積
 村基本財産蓄積條例ニ依リ基本財産ヨリ生スル收入、國稅徵收法、並縣稅徵收ニ關スル規程ニ依リ收入スル交付金ノ二分ノ一戸籍法並寄留手續令ニ依リ收入スル手数料不用品賣拂代、歳計ノ剰余金指定寄附金等ヲ蓄積スルモノニシテ大正四十八年度ニ至リ金七万五千五百十八圓ヲ得ル豫定ナリ大正七年度末蓄積額左記ノ通り
 山林四町壹反歩 價格四百五拾圓
 公債證書(四分利) 額面五十圓價格金五拾圓
 農工債券 額面千七百圓價格金千七百圓

現金參千貳百七拾圓
 而シテ之カ管理ノ方法ハ山林ニアリテハ相當植林ヲ爲シ又現金ハ郵便局へ預入シテ管理シツ、アリ

一、小學校基本財産設置ノ沿革

明治二十九年ヨリ本村内各小學校(元桃野高等小學校元月夜野尋常小學校元吳桃尋常小學校小倉尋常小學校)ニ夫々基本金ノ蓄積ヲ始メタレトモ明治四十四年六月二十八日之ヲ統一シ小學校基本財産金トナシ今日ニ至ル

二、小學校基本財産蓄積及管理
 大正五年中從來ノ小學校基本財産蓄積並管理規程ヲ條例ニ引直シ即チ小學校基本財産ヨリ生スル收入小學校費ニ屬スル豫算ノ剰余ノ二分ノ一以上指定寄附金等ヲ蓄積スルコトナシ大正七年度末ニ於テ左ノ通り蓄積額ヲ有スルニ至レリ
 山林 八段六畝九歩 價格貳百圓
 畑 壹反六畝二十歩 價格參百五拾圓
 原野 九反八畝歩 價格九拾八圓
 現金參千六百六拾四圓
 備考 土地ノ價格前報告ニ記載ノ價格ハ低廉ト認メタルニ依リ本書ノ通り更正セリ

合計四千參百拾貳圓

一、罹災救助資金設置ノ沿革
 明治三十三年本資金蓄積ノ必要ヲ認メ六月九日

内務大臣ノ許可ヲ受ケ蓄積條例ヲ設ケ爾來蓄積ヲ勵行シテ今日ニ至ル

二、罹災救助資金蓄積及管理

罹災救助資金ヨリ生スル收入、救助費ニ對スル縣郡補助金指定寄附金ヲ蓄積スルモノニシテ大正七年度末ニ於テ左ノ如ク蓄積額ヲ存セリ
一、現金 九百七拾六圓 郵便局預入
一、農工債券 額面七百圓 價格七百圓
合計千六百七拾六圓

新 治 村

一、村基本財産設置ノ沿革

(イ) 現金ノ蓄積
明治四十四年七月基本財産蓄積條例ヲ設ケ明治四十四年度ヨリ向五十年間蓄積スルコト、セリ而シテ其ノ積立ツヘキ收入ノ種類ヲ左ノ通り定メタリ
一、基本財産ヨリ生スル收入
二、國稅及縣稅徵收ニ關スル規定ニ依リ收入スル交付金

(ロ) 有價證券ノ取得

蓄積金ハ群馬縣農工銀行發行ノ債券募集ニ應ズル目的ヲ以テ同行ニ定期預金トシテ預入シ置キ同行債券發行ノ際之ヲ購入シ又ハ日本勸業債券ヲ購入セリ

ハ 土地ノ取得

大正三年三月山林一町二段七畝八歩ヲ購入シ明治天皇御聖德記念林トセリ本山林ハ從來ヨリ竹林ナリシヲ以テ之ヲ整理シ且補殖ヲ行ヘリ其ノ後大正六年二月右ノ内三畝七歩ヲ分割シテ他ニ讓與セシヲ以テ現在一町二段四畝一步トナレリ大正五年二月山林三段一畝十五歩ヲ大林區署ヨリ拂下御大典ヲ記念トスル爲大正記念林トセリ是亦前者ト等シク竹林トナス目的ヲ以テ竹ヲ栽植セリ其ノ後大正六年二月右ノ内三畝二十二歩ヲ分割シテ他ニ讓渡セシヲ以テ現在二段七畝二十三歩トレリナ

ニ 山林ノ經營

山林取得ノ項ニ述ベタル如ク明治天皇御聖德記念林ハ從來竹林ナリシヲ以テ之ヲ整理シ更ニ若

三、戶籍法ニ依ル手数料

四、村條例ニ依リ收入スル總テノ手数料及使用料

五、毎年度村會ニ於テ議決シタル百圓以上參百圓以下ノ村費積立金

六、其ノ他村會ニ於テ議決シタル蓄積金

大正四年二月條例ヲ改正シ蓄積スヘキ收入ノ種類ヲ左ノ通改メタリ即チ

一、基本財産ヨリ生ズル收入

二、國稅徵收法ニ依リ收入スル交付金二分ノ一及縣稅徵收ニ關スル規定ニ依リ收入スル交付金全部

三、村條例ニ依リ收入スル手数料及使用料

四、戶籍法及寄留手續令ニ依リ收入スル手数料

料

五、不用品賣却代但シ學校不用品賣却代ヲ除ク

六、指定寄付金

七、其他村會ニ於テ議決シタル臨時蓄積金

以上ノ方法ニ依リテ蓄積シ以テ今日ニ至レ

竹ヲ栽植セルコト左ノ如シ

大正三年四月 若竹百四拾本新植

大正四年四月 全百拾本補植杉六百本新植

大正記念林ニ栽培セシコト左ノ如シ

大正五年五月 若竹百二十五本

土地購入及植林費ノ支出金額左ノ如シ

大正三年度土地購入費四百貳拾五圓 植林四拾四圓四拾錢

大正四年度 土地購入費參拾八圓六拾四錢

大正五年度 植林費拾九圓六拾四錢

二、基本財産ノ蓄積及管理

イ 蓄積ノ財源

沿革中ニ述ヘタル基本財産蓄積條例中ニ掲ケタル收入ヲ以テ財源トス

ロ 蓄積ノ豫定又方針

當初設置ノ際ハ五十年ノ目的ナリシモ其ノ後條例改正シ基本財産ノ利子ヲ以テ學校費ヲ除キタル他ノ半額以上ヲ支辨シ得ルニ至リタル時ハ利子ニ限リ之ヲ村費ニ充ツルコトヲ得トシ年限ヲ定メ又永久ニ蓄積スルコト、セリ

ハ 蓄積ニ關スル内規申合 條例外ナシ

ニ 基本財産ノ種類及現在高

現金

特約預金 千參百九拾壹圓四拾八錢

郵便預金 拾壹圓貳拾貳錢

保管現金 六錢九厘

有價證券

群馬縣農工銀行債券額面貳千八百圓購入額同上

日本勸業銀行債券 全 百 圓 全 上

合計四千三百貳圓七拾六錢九厘

土地

山林一町五段一畝二十四步

管理

有價證券並現金保管ニ係ルモノハ村長専用ノ金庫ニ納メ村長之ヲ保管シ蓄積金ノ大部分ハ特約預金トシテ農工銀行ニ預入シ又ハ郵便貯金トシ

該通牒ハ村長之ヲ保管セリ

勸業債券ハ保管ヲ郵便局ニ委託セリ

山林ニ關シテハ特ニ造林委員五名ヲ置キ村有山林並學校基本財産タル山林ヲ保護監督セシメ居

レリ

別積立申合規約ヲ設ケテ之ヲ實行セリ

以上ノ方法ニ依リテ年ニ積蓄ニ努メ以テ今日

ニ至レリ

(ロ) 有價證券取得

蓄積金ハ群馬縣農工銀行發行ノ債券ニ應スル目的ヲ以テ同行ニ定期預金トシテ預入シ置キ同行

債券發行ノ際之ヲ購入シ又ハ日本勸業債券ヲ購

入セリ

大正五年二月本村内大字新巻生方大吉ヨリ日本

勸業債券四拾圓全貯蓄債券拾圓ノ寄付アリ之ヲ

受入レタリ大正七年四月全生方大吉ヨリ帝國政

府五分利付公債證書二百四圓ノ寄付アリ之ヲ受

入レタリ

ハ 土地ノ取得

明治四十二年二月本村内大字羽場字味城山山林

十九町九段八畝十歩ノ國有林野ヲ拂下ケタリ

全年全月本村内大字相保字ノ澤ニ於テ五町三段

六畝八歩ノ國有林野ヲ拂下ク其ノ後大正七年六

月地目變換等ノ爲實測ノ結果丈量増ノ爲五町三

段八畝二歩ニ増加セリ

一、小學校基本財産設置ノ沿革

(イ) 現金ノ蓄積

明治四十二年三月新治村小學校基本財産蓄積及

管理規程ヲ設ケ明治四十一年度ヨリ向五ヶ年

間蓄積スルコト、定メ左記種類ノ收入ヲ積立ツ

ルコト、セリ

一 小學校生徒ノ報恩寄付金

二 小學校樹栽地ヨリ生スル收入

三 小學校所屬財産ヨリ生スル收入

四 學校費豫算ノ殘余

五 有志者指定寄付金

其ノ後大正四年二月更ニ小學校基本財産蓄積條

例ヲ設定シ左記種類ノ收入ヲ積立ツルコト、セ

リ

一 小學校基本財産ヨリ生スル收入

二 學校不用品賣却代

三 學校園學校樹栽地全農業實習地其ノ他學校

所屬ノ財産ヨリ生スル收入

四 指定寄付金

明治四十四年四月一日ヨリ小學校基本財産特

大正二年九月本村内大字羽場字伊賀ノ山ニ於テ

山林一段五畝歩ヲ購入セリ

大正七年八月本村内大字猿ヶ京林喜十郎大字相

保字大田和山林一段二十四歩ノ寄付アリ之ヲ受

入レタリ

全年全月本村内大字猿ヶ京阿部秀太郎大字相保

字大田和山林一段一畝二歩ノ寄付アリ之ヲ受入

レタリ

(ニ) 山林ノ經營

本村内字羽場字味城山十九町九段八畝拾歩ノ地

ニ植栽セシヨト左ノ如シ

明治四十三年五月 松杉合セテ六万二千本新

植

全 四十四年四月 松三千本杉三千本補植

全 四十五年五月 松八千本補植

本村大字相保字ノ澤五町三段八畝二歩ノ地ニ

植栽セシヨト左ノ如シ

明治四十三年五月 松杉扁柏併セテ一万八千

四百本新植 杉千七百本松五百五十本

全 四十五年五月 扁柏五百五十本補植
杉五千本補植

本村大字羽場字伊賀ノ山一段四畝十歩ノ他ニ植
栽セシコト左ノ如シ

大正二年五月 松一千本新植

本村大字相俣字大田和二段一畝二十六歩ノ地ニ
植栽セシコト左ノ如シ

大正五年五月 杉七百本新植

大正七年六月 杉五百二十五本補植

土地購入及支出金額左ノ如シ

明治四十三年度 土地購入費貳千五百四拾壹圓
植林費八百貳拾圓六錢五厘

全 四十四年度 全 四百貳拾八圓拾錢

全 四十五年度 全 四百貳拾八圓貳拾錢

大正元年度 全 四百貳拾八圓貳拾錢

大正二年度 土地購入費參拾五圓
全 金四百四拾五圓

大正五年度 全 七圓六拾五錢

大正七年度 全 拾四圓八拾七錢

二、小學校基本財産ノ蓄積及管理

(イ) 蓄積ノ財源

沿革中ニ述ヘタル基本財産蓄積ノ條例中ニ掲ケ
タル收入及小學校基本財産特別積立申合規約ニ
由ル寄付收入トヲ以テ財源トス

ロ 蓄積ノ豫定又ハ方針

當初設置ノ際ハ五十年ノ目的ナリシモ其ノ後
條例ヲ改正シ基本財産ノ利子ヲ以テ學校費ノ半
額以上ヲ支辨シ得ルニ至リタルトキハ利子ニ限
リ之ヲ村費ニ充ツルコトヲ得トシ年限ヲ定メズ

永久ニ蓄積スルコト、セリ

(ハ) 蓄積ニ關スル申合規約

第一條 小學校基本財産特別積立申合規約

第一條 學校ハ吾人子孫ノ智能ヲ啓キ品性ヲ磨キ
國民トシテ有用ノ人物ヲラシムル恩師ナルヲ
以テ親戚ノ最モ重キモノトシテ取扱フモノト
ス

第二條 學齡兒童入學ノ際及一般婚姻(モラヒ方ノ
ミ)ノ場合ニハ必ズ學校ヲ招待スルモノトス

第三條 學校ニ供スル膳部ハ其ノ代價ニ見積リ左
ノ標準ニ依リ金額ヲ呈シ供繕ニ代フルモノト
ス

施スルモノトス

(ニ) 基本財産ノ種類及現在額

現金

特約預金 千百六十七圓八拾八錢

郵便預金 八拾九圓七錢

保管現金 四錢參厘

有價證券

帝國政府五分利付公債證書 額面貳百圓

日本勸業銀行債券 額面百六拾圓購入額 同上

但内四拾圓寄付受入

全 上貯蓄債券全 拾圓寄付受入

群馬縣農工銀行債券全 六千參百圓購入額同上

合計金七千九百貳拾六圓九拾九錢參厘

土地

山林二十五町七段三畝十三歩

管理

村基本財産ノ管理ト同シ

一、罹災救助資金設置ノ沿革

(イ) 現金ノ蓄積

一 學齡兒童一人ニ付金拾錢以上

二 婚姻ハ縣稅戶數割等級ニ依リ左ノ通り區
別ス

自優等至五等 金五拾錢以上

自六等至七等 金四拾錢以上

自十一等至十五等 金參拾錢以上

自十六等至二十五等 金貳拾錢以上

自二十六等至末等 金拾錢以上

第四條 學校へ供スル膳部料ハ學齡兒童ハ入學ノ
際婚姻ニ付テハ戶籍吏へ届出ノ當月又ハ其翌
日所屬學校又ハ父兄總代へ差出スモノトス但
シ父兄總代へ差出ス場合ニハ三日以内ニ所屬
學校へ送付ヲ求ムルモノトス

第五條 膳部料ヲ學校へ差出シタルトキハ其ノ小
學校長ニ於テ毎月末ニ仕譯書ヲ添ヘテ村長ニ
送付シ學校基本財産中へ編入ノ手續ヲ求ムル
モノトス

第六條 此ノ規約名簿ノ保管並ニ同盟者ノ加除ハ
其ノ所屬學校へ依頼スルモノトス

第七條 此ノ規約ハ明治四十四年四月一日ヨリ實

明治四十一年五月元久賀湯ノ原兩村ニ於テ積立テタル罹災救助資金ノ引繼ヲ受ケタルモノヲ基礎トシ全四十一年九月罹災救助資金蓄積條例ヲ設ケ年々村費ヨリ積立テタリ其ノ後大正四年更ニ條例ヲ改正シ左ニ掲ケル收入ヲ積立ツルコトセリ

- 一 罹災救助資金ヨリ生スル收入ニシテ救助費ニ充用シタル殘余金
 - 二 救助費ニ關スル縣及郡補助金
 - 三 指定寄付金
 - 四 村費ヨリ毎年度金參拾圓以上五百圓以下ノ範圍ニ於テ村會ノ議決ヲ以テ定メタル額
- 以上ノ方法ニヨリテ蓄積シ以テ今日ニ至レリ
- ロ 有價證券ノ取得
- 村基財產沿革ノ項ニ述ヘタル方法ト同シ
- ハ 土地ノ取得
- 無之
- 二、罹災救助資金ノ蓄積及管理
- イ 蓄積ノ財源
- 沿革中ニ述ヘタル條例中掲ケタル收入ヲ以テ財

(ホ) 管理
村基本財產ノ管理ニ同シ

久呂保村

- 一、村基本財產設置ノ沿革
大正二年六月三十日村基本財產蓄積條例ヲ設置シテ村基本財產ヲ蓄積スルコト、シ又畑五畝四歩ハ明治三十三年八月六日金百七拾圓ヲ以テ買收シ村立隔離病舎處地ニ使用シタルニ大正二年全舎移轉ノ爲メ之ヲ畑ニ開墾シ一ヶ年拾五圓ノ貸地料ヲ收入シ之ヲ個人ニ貸付シアリ
 - 二、村基本財產蓄積及管理
基本財產ヨリ生スル收入國縣稅徵收交付金ノ二分ノ一戶籍法及寄留手續令ニ依リ收入スル手數料等ハ之ヲ村基本財產ニ蓄積スルモノニシテ現在(大正七年度末)左ノ通蓄積額ヲ得ルニ至レリ
- 一 畑五畝十四歩 價額金貳百五拾圓
 - 一 國庫證券額面 七百圓 價格金七百圓
 - 一 現金五百貳拾七圓
- 合計壹千四百七拾七圓

源トス

- (ロ) 蓄積ノ豫定又ハ方針
資金七千圓ニ達スル迄ハ年々積費ヨリ積立テタルモノ千圓ニ達シタル后ハ村費積立ハ之ヲ停止シ資金ヨリ生スル利子其ノ他ヲ積立ツルコト、セリ
- (ハ) 蓄積ニ關スル内規申合
- 無之
- (ニ) 資金ノ種類及現在額
- 現金
- 特約預金 貳千八百九拾貳圓五拾八錢
- 郵便貯金 七十五圓九拾七錢
- 一時費消金 五百圓
- (學校建築費ニ重要ノモノ)
- 有價證券
- 群馬縣農工銀行債券額面 五千參百圓購入額面 同上
- 日本勸業銀行債券額面 百四拾圓全上
- 合計 金八千九百八圓五拾錢

而シテ之ガ管理方法ハ土地ハ前項記述ノ通りニシテ現金ハ本縣農工債券應募特約預金トシテ參百圓郵便貯金トシテ貳百貳拾七圓ヲ預入セリ

一、小學校基本財產設置ノ沿革

- 明治四十年六月五日ヨリ卒業生報恩金基本財產ヨリ生ズル收入及編入出決算剩余金ヲ蓄積シ來リシガ大正四年四月二十七日入學校基本財產積積條例ヲ設置シテ之ガ増殖ヲ圖ルニ努メタリ又山林中二十七町四段七畝二十四歩ハ明治三十九年五月二十九日壹千九拾壹圓參拾錢ヲ以テ國有林野ノ拂下ヲ受ケ本財產ニ編入シ又全一町四段五畝二十三歩ハ大正六年五月八日金百五拾九圓五拾錢ヲ以テ國有林野ヲ拂下以テ本財產ニ編入シタルモノナリ
- 二、小學校基本財產ノ蓄積及管理
條例ニ依リ蓄積產ヨリ生スル收入教育又ハ入學校費ノ剩余金學校園學校樹栽地ヨリ生スル收入指寄附金等ハ全部蓄積ヲナスモノトシテ現在左ノ通り蓄積セリ
- 一、山林二十八町九段三畝拾七步價格金五千七百

大正八年十月二十八日印刷
大正八年十月三十一日發行

發行所

發行人
編輯人
印刷人
印刷所

(非賣品)

利根郡長 野中富三郎
利根郡書記 島田一鑿

群馬馬利根郡沼田町千九番地

金子惣助
全縣全郡全町全番地
菊屋印刷所

群馬縣利根郡役所